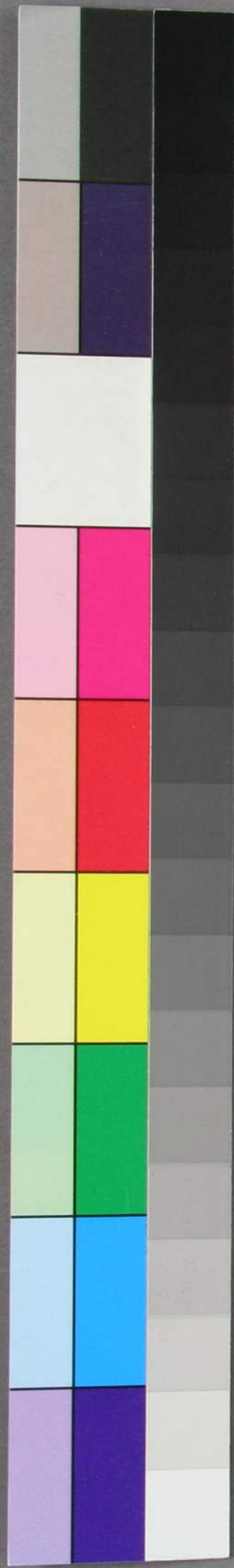


茶式湖月抄

四篇上

ヲ津
422
7



津門
 號 422
 卷 7

明治二十六年十月十三日
 坪内胡氏
 式寄贈

東京
 茶式
 湖月抄四編卷上

茶式湖月抄四編卷上

目次
 壺装束之變

飭捨盡故變
 長緒
 緒細懸

釜仕掛之變

燒口輪口皆口霰常張羽釜雲龍手取等

掛物之心得并釘步

幢補輪補裱補對幅卷緒等附掛竹

茶式湖月抄四編上

花入ハナイレ 差排サハハ 花釘ハナナギ 抄寸法

箆ヘラ 瓢ヒヤウ 青磁耳附アヲ 舟馬フネウマ 盥アヲ 糸イト 末由マツヨ

花打ハナウチ 敷寸方シキスナカタ

羽ハ 簾シタ

一羽 三羽 束緒 小羽

建水ケンスイ 面桶オモツ 寸方スナカタ

代衣タテイ 棚ナ 紹鷗セウオウ 好コト

城樓シヨウロウ 棚ナ 宗ソウ 及キツ 好コト
半切棚ナ 上毛ウモ

棚ナ 扱アツ

洞ホラ 棚ナ

利休リキウ 簞司タンシ

宗納ソウナ 簞司タンシ

割ワリ 簞司タンシ

利休リキウ 茶箱チハコ 帟フ

臺子ダイシ 矩割コノリ 秘ヒ 笈ヒツ 附ツケ 宗易ソウイ 之文ノモノ

小臺子コダイシ 矩割コノリ 飾カザリ 弓臺ユウダイ 中扱ナカアツ

臺子ダイシ 之ノ 差排サハハ 敷シキ 条ジョウ

弓臺ユウダイ 中扱ナカアツ

以上 上卷

茶式湖月抄四編卷上

○壺

装束サウダツ

飴アツ

捨壺故実テネコウジツ

壺の装束サウダツ品々あり 網アミ口覆クチフクレ口緒クチヲ長緒ナガヲ半緒ハンヲ
 乳緒チヲ等ナドあり 飾カザリや 扱床アツドコ紙カミと敷シキてかゝる
 奉書ハウシヨと四重ヨカサチ壺ツボの底ソコより外ソト四五分ゴリ餘マダ
 紙カミの折目オリメと前マエふすまタミ置床シマドコと
 敷紙シキガミと及およびびと名物イモノ壺ツボの志シと紙カミと書シヨ

院方にてハ葉茶壺のかざり色とあり又書院
と口切の車もあり口傳小堅敷と壺ぐりの
と口切の時とあり又時宜ふより常の會と
と壺飾あり

○捨壺の故実の利休の時代は小島屋道宗とあり
その真壺をいふも頂山はあなとの見事
なる壺とあり人々んとて所望せりと名もなと
壺ぐりとも如何なりと早下とあり或とと支
人西三客道宗が常の會ふまはるりと待合

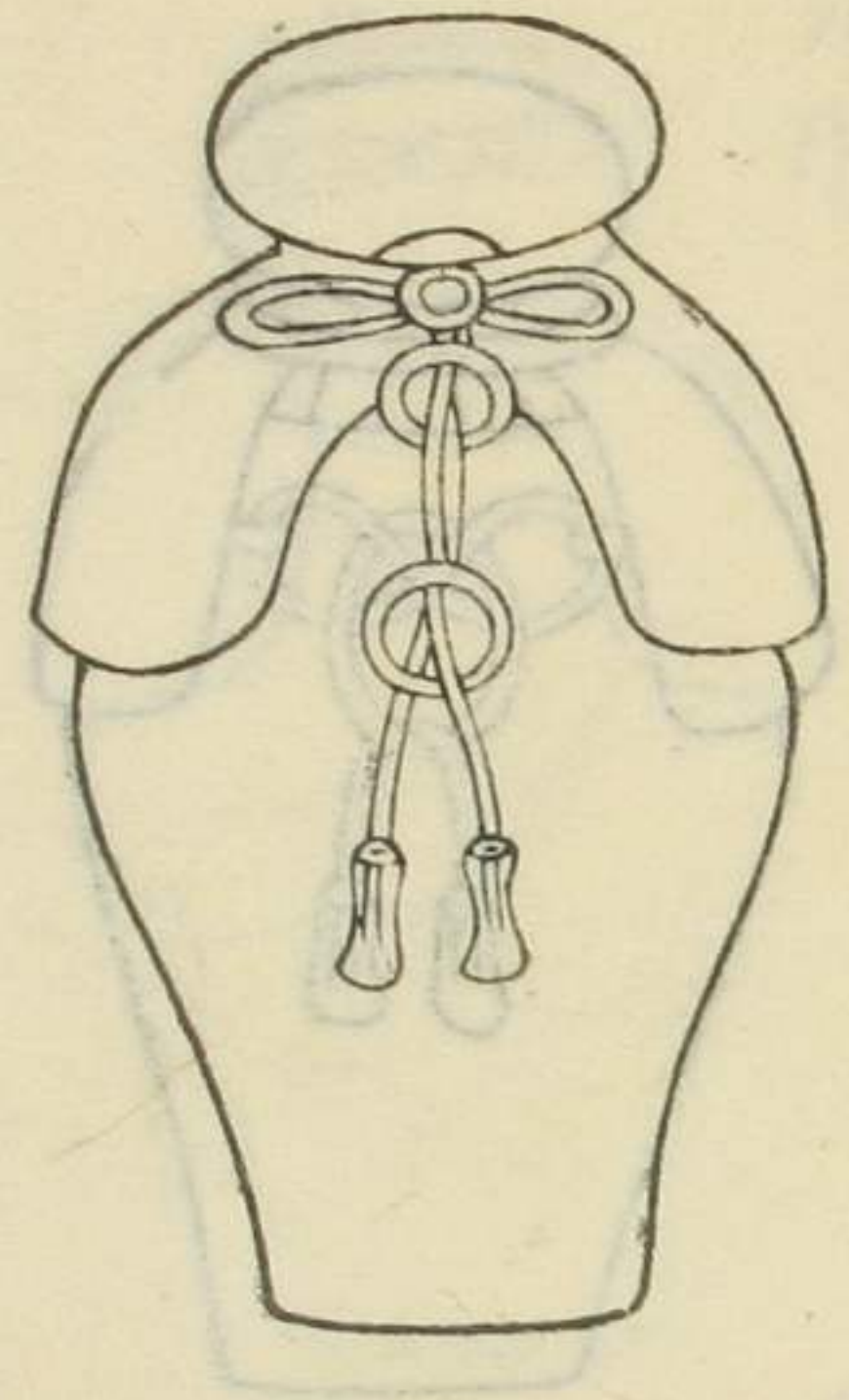
より人を以て人テ日とありとあり一壺拜
見大らなり志りとも猶も惜とあり此ま
退きとありとあり道宗とありとあり入
て中との答かしてやと迎とあり客とあり例の
潜を聞き入りとあり彼壺口覆とありして潜の
ありとあり道宗とありとありはとありとあり
とありとありとありとありとありとありとあり
のありとありとありとありとありとありとあり
やとありとありとありとありとありとありとあり
とありとありとありとありとありとありとあり

後コシのコシ小コシ樽コシやの時トキあるとエ得エるけトヨサ新トヨサ作トヨサと人カン々カン
一ツボ樽ツボとツボいツボふツボとツボうツボ利ツボ休ツボとツボ時ツボ々ツボ
大オホのオホ飾オホもオホあオホるオホとオホなオホまオホもオホとオホ新オホ作オホのオホしオホとオホ壺オホ出オホすオホけオホ
なナまナはナへナ結ナらナるナかナらナしナきナもナ他ナあナるナぶナしナ樽ナとナ壺ナ
うウらウまウらウるウもウ給ウすウおウしウまウらウるウもウ給ウすウ

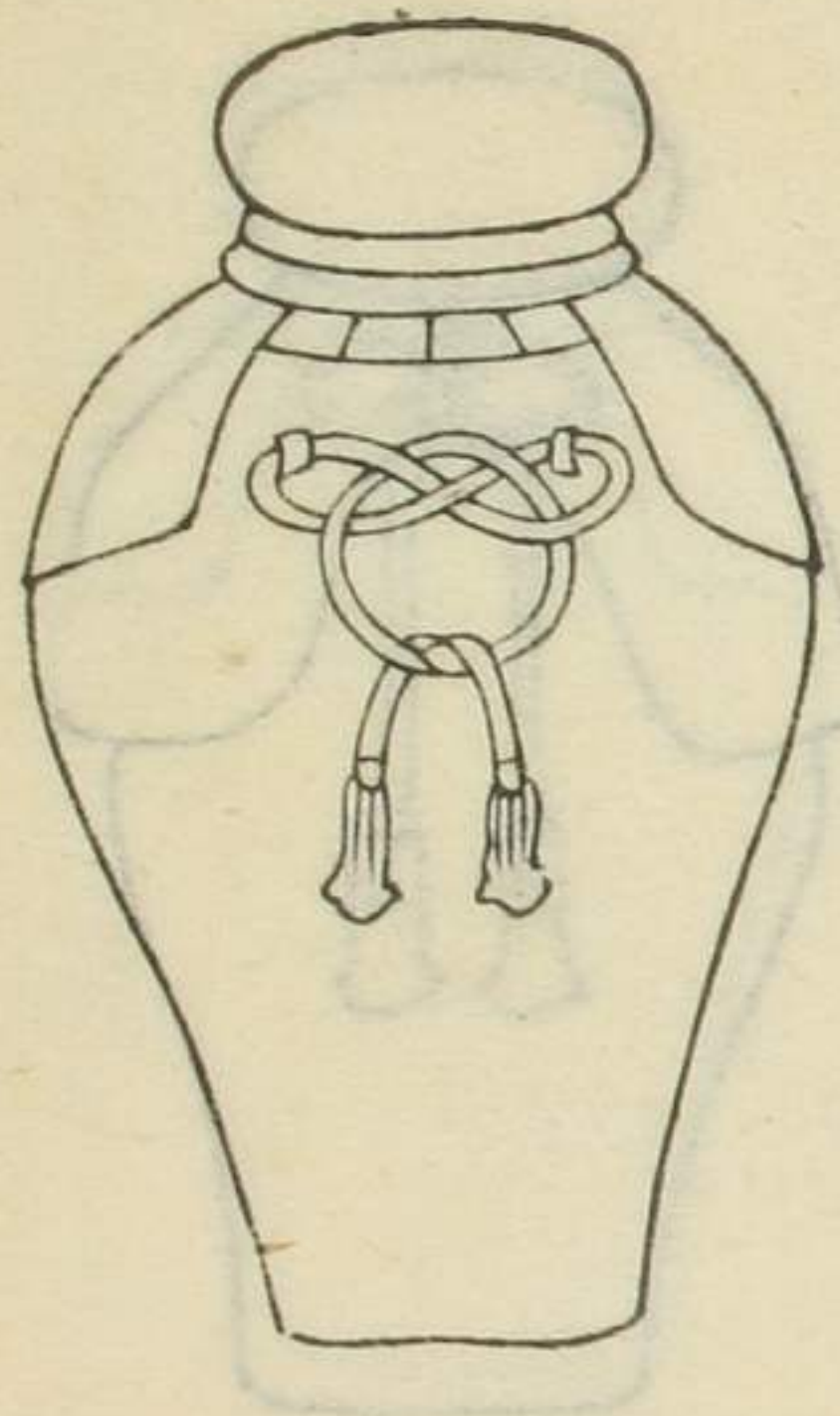
壺装束

口覆金入を用ひ
大と壺の大小より造る

長緒ナガヲ



乳緒チヲ

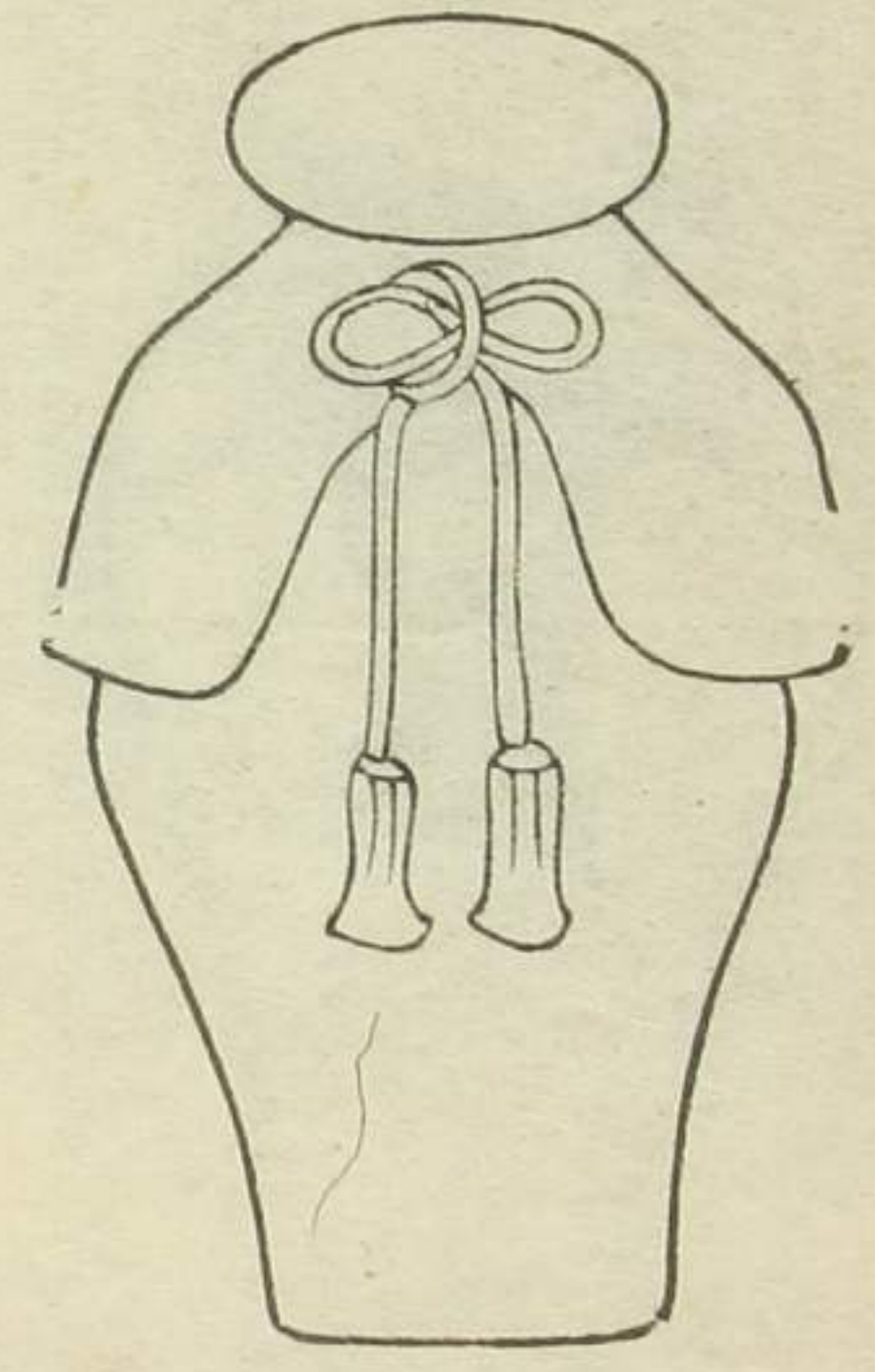


但股ヨリ見ル形

乳チの口覆シタの下シタより
足チさチずチまチるチ乳緒
のチ形チ四チ角チ
如此カク志チるチ

長緒

七尺五寸
八尺五寸
九尺五寸
壺ノ大小ニ
ヨリ違アリ



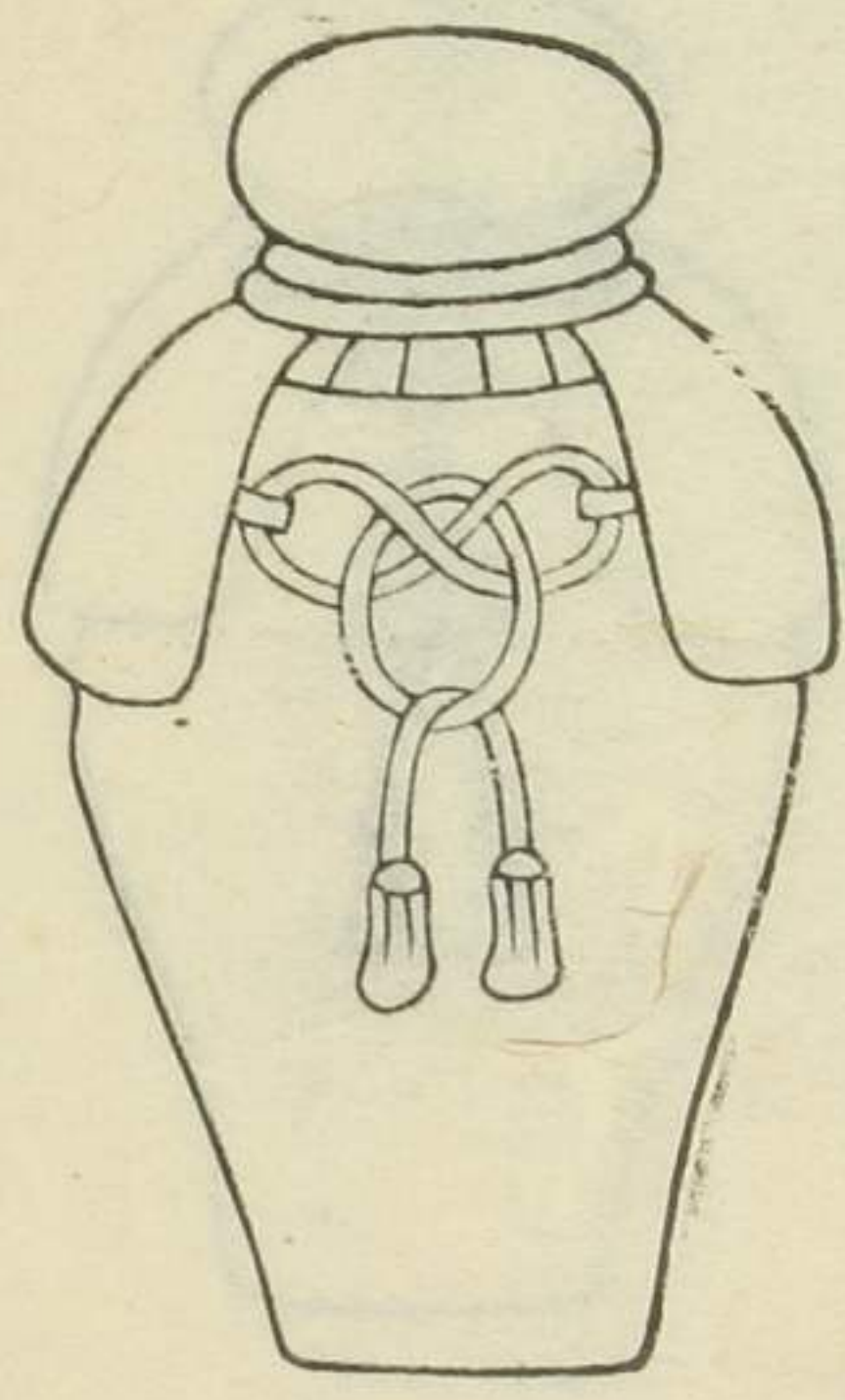
紅紫の間

房長サ

一尺七八分
二寸ホトヨシ

乳緒

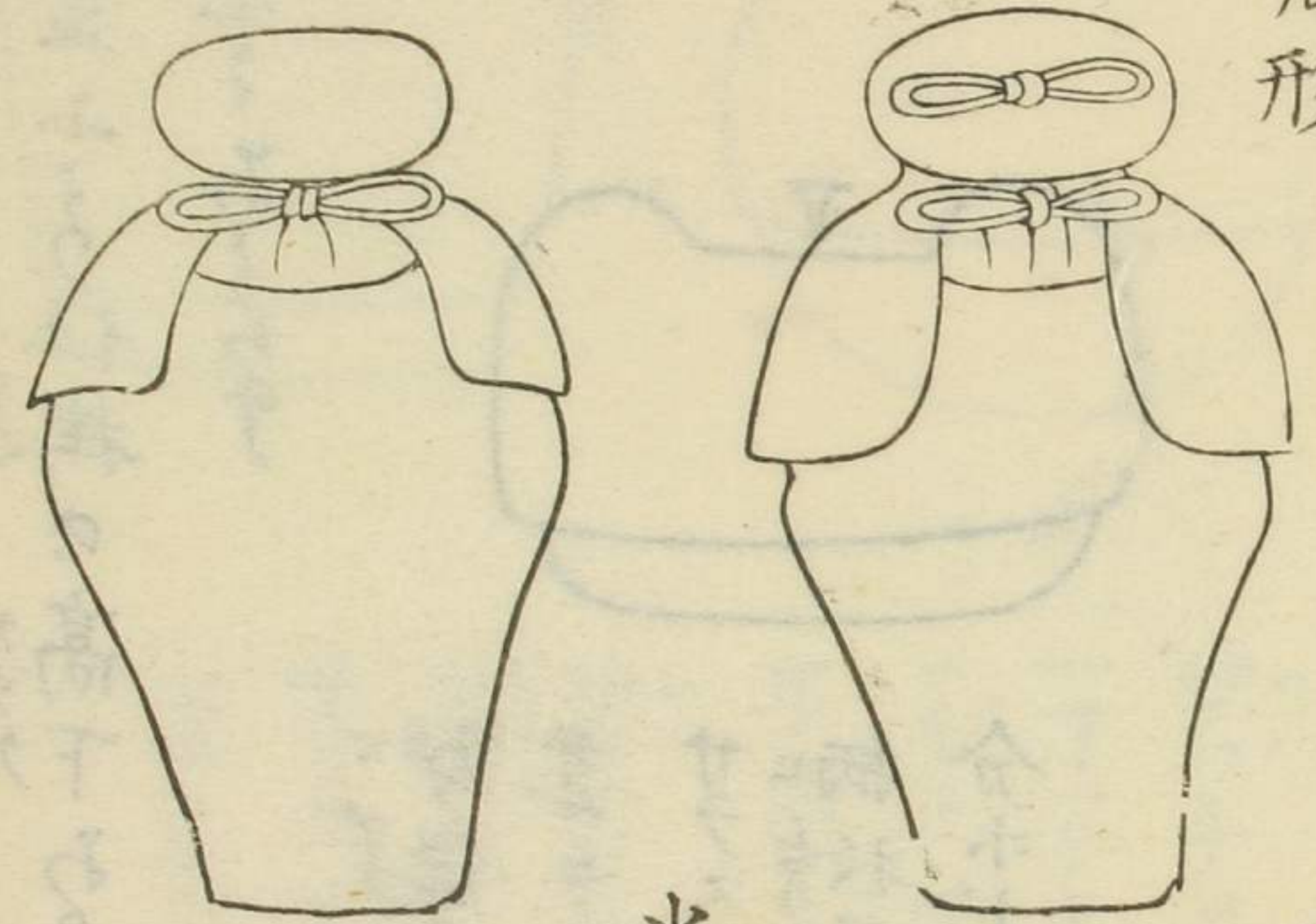
左



乳緒

長サ二尺五寸

細カリタル形



但

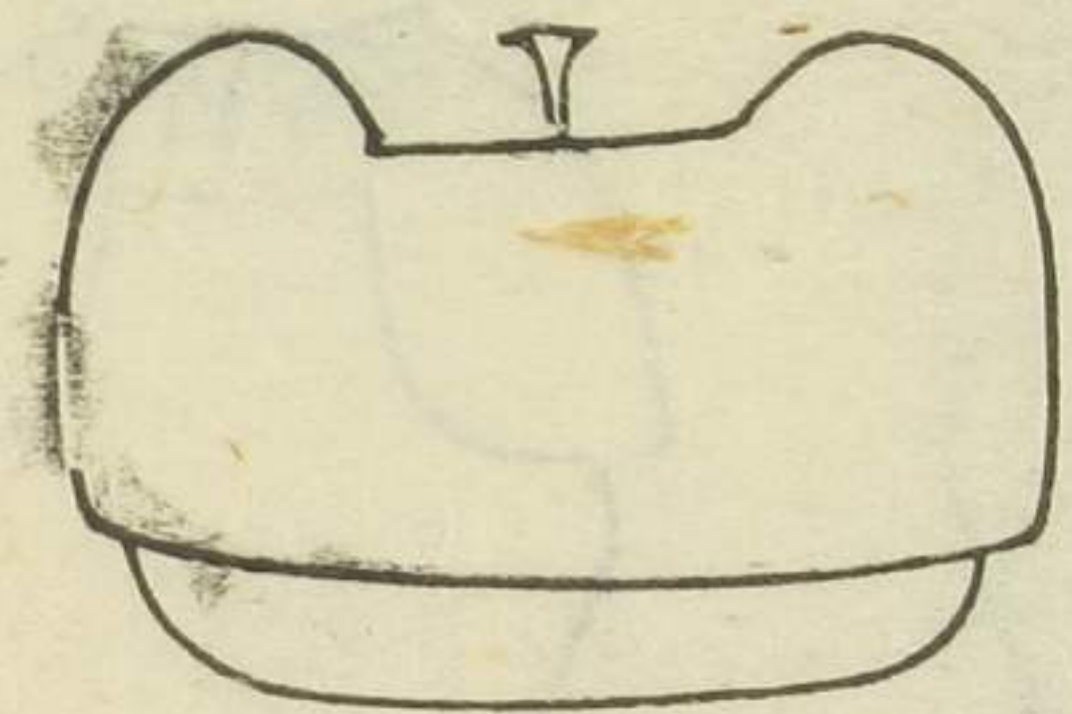
細ノトキハ長緒ハ
カケス半者ニ

半緒

長 三尺五寸四尺ノ
間房ハナシ左右ハ
床ニヨリ違アリ

○釜 カマ

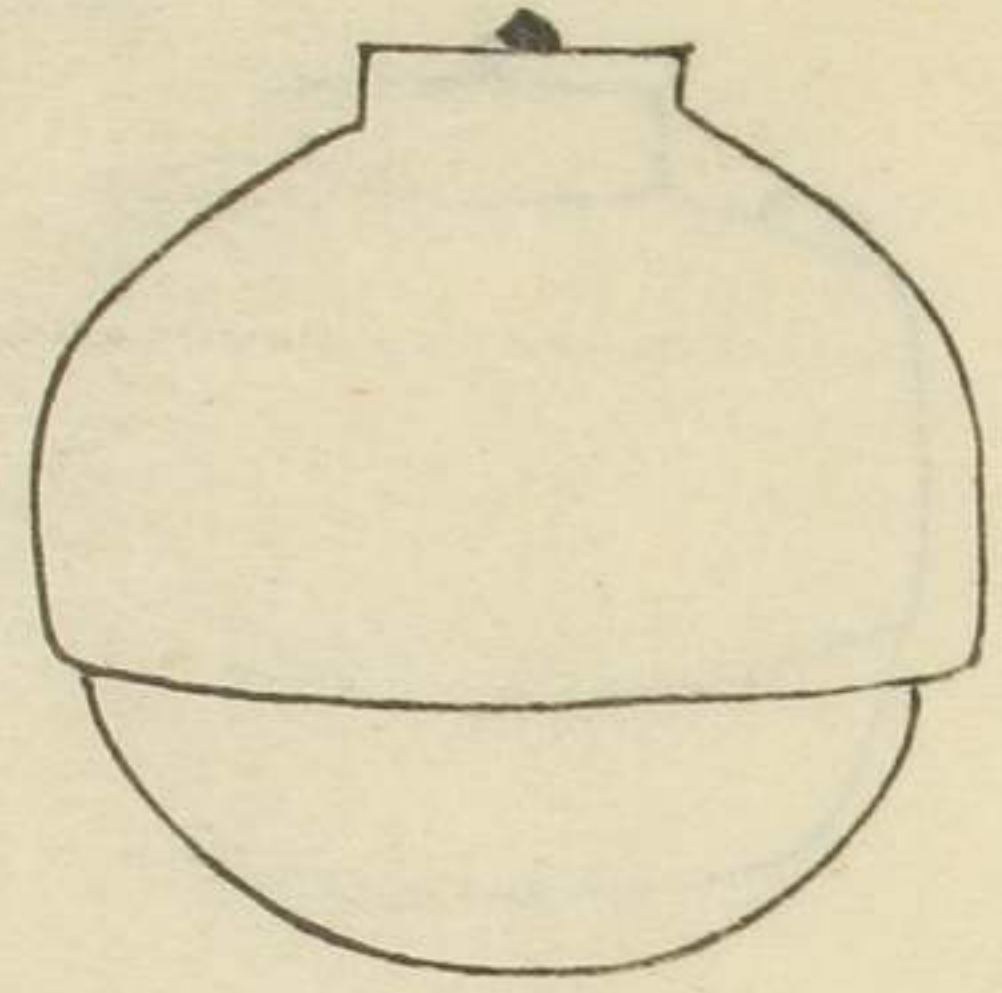
釜ふより仕掛の高下あり心得カウゲいづるシカタ



姥口 ウメノクチ

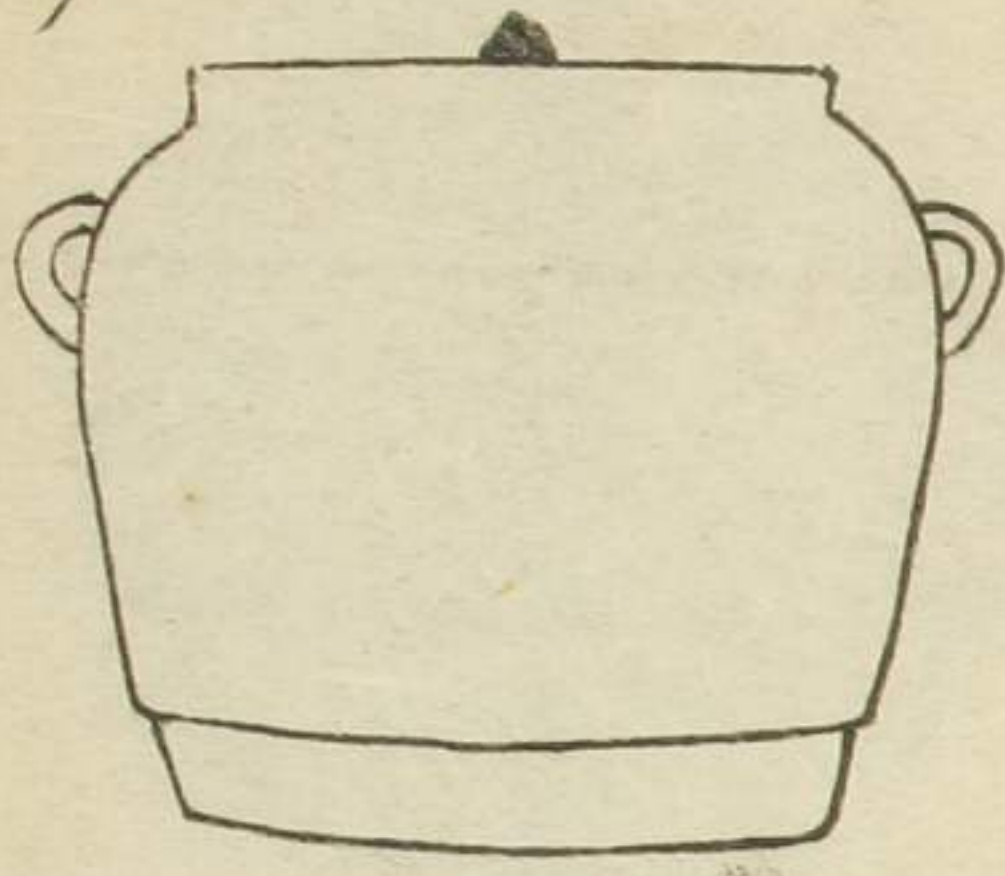
焗縁ヨリ四寸五分六寸ホ
サゲテ仕掛シカタベシ姥口ヨリテ
サラスコシアシ悪キモアリ
柄ヒシタ扱ヲカケテ柄サキ二三
分ホド上ルヤウニスベシ

輪口 ワタチ



皆口 ミナチ

双太鼓胴 フタドム
上モ 阻形 トモ
夕カ

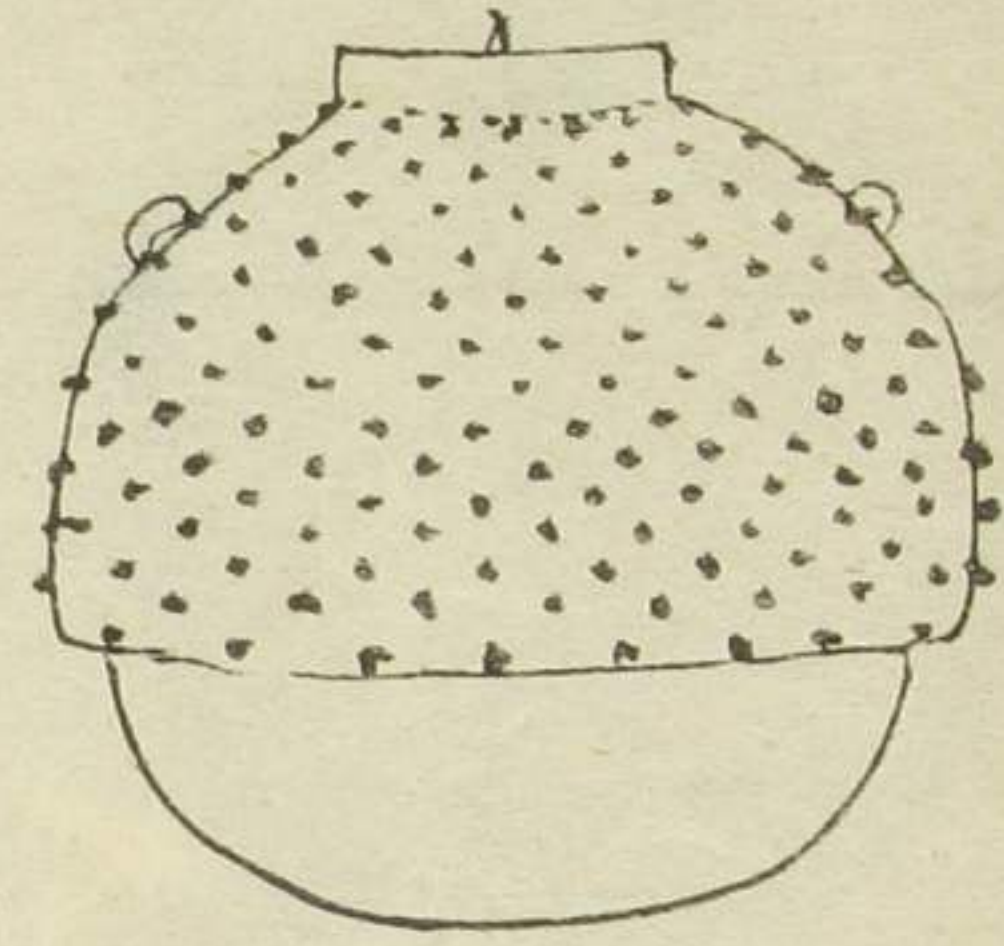


焗ロフチヨリ定規テウキヲワタシテ
一寸五分又ハ九寸八厘六分ホド
ズゲテ仕掛シカタヘシ輪口ニヨリ
不同アリ

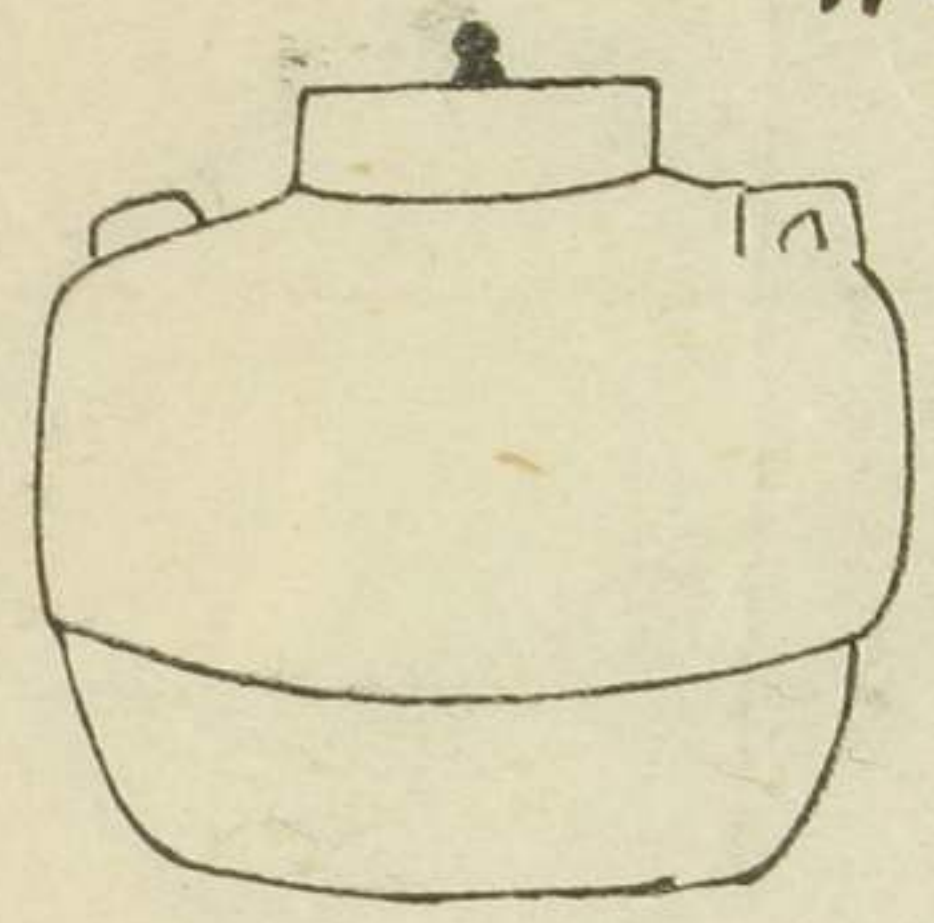
焗ロ子ヨリ八寸ホト上ア仕掛シカタヘシ寒カン気
甚タキク取ハ湯湧カヘルヲミニテヨシ
サトモ口クチ廣ヒロキユヘ湯ノサムル心ア
リテヨシ然シカシ春秋ナトハ好コトニス

大正代胡月少四編上

霰アラレ



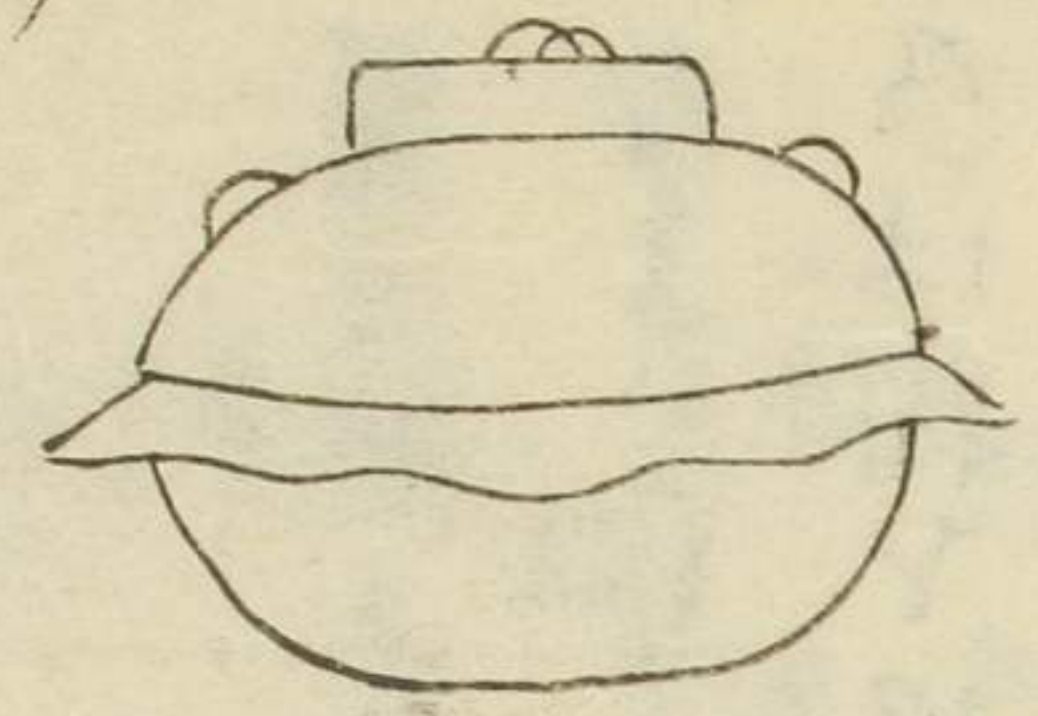
常張ツネバリ



燒ウツクチ口ニモ輪ワ口ニモ其外イヅノ形カタ
ニモアリ 釜フマキン中ニテ拭シフトキハ
常ツネノ釜トハ会アヒラヒ釈シカフナリ
霰アラレノ上ヲシトクトヲシテ改
ムヘシ

常ツネノ環ワニテハ掛カケオロシ成
カタシ 罎ツツゴトキ環ワヲ用ユ

羽釜ハカマ



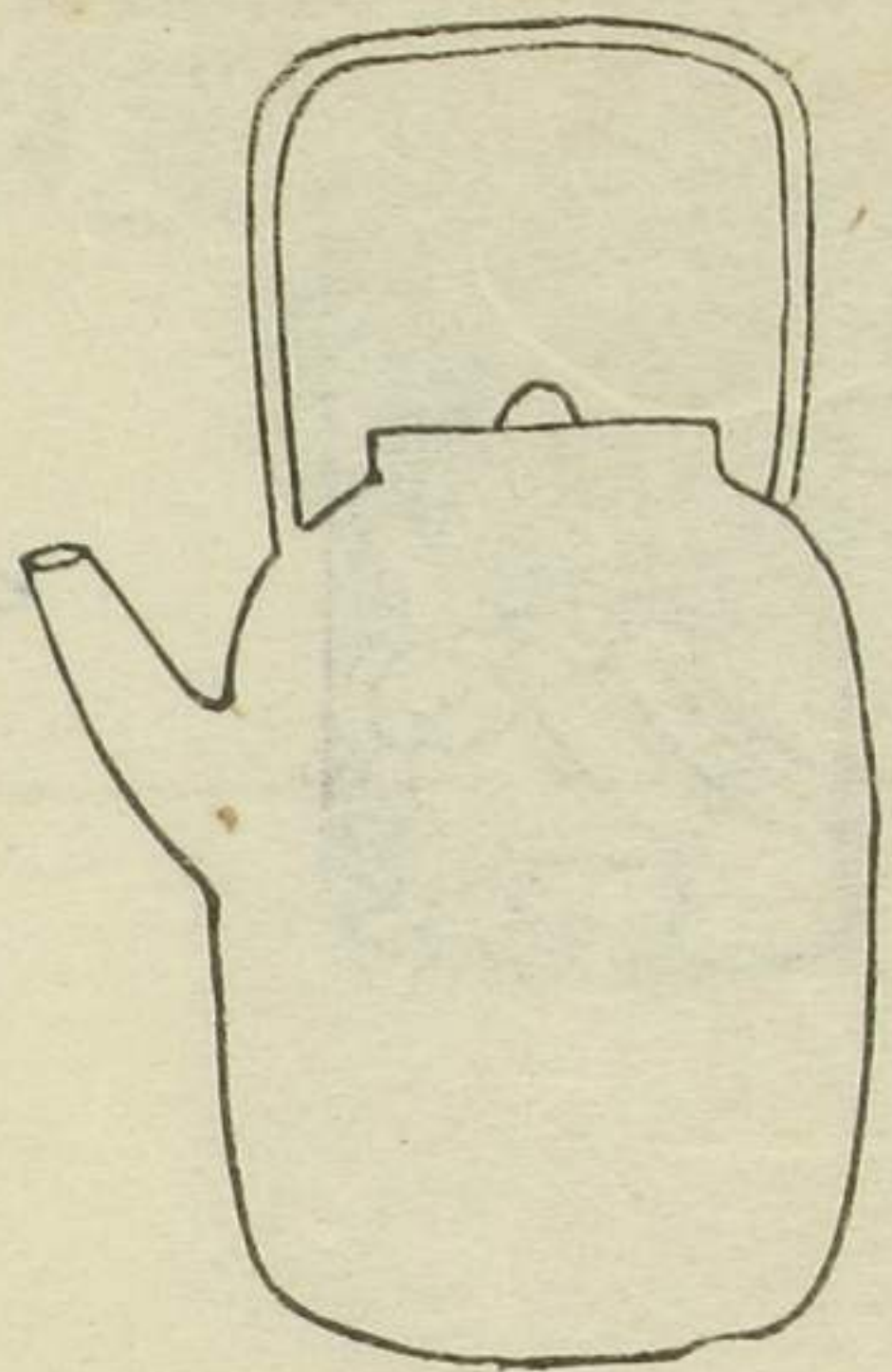
雲龍ウンレウ



土櫃ツツニカルホドノ大羽オホハアル釜カマヲ
敷シキ木ニテ作用フナリ 風フ炉ロニモ敷
木ヲ用ル人アリ 不好ヨクサルナリ 至極シヨク
アヤウキモノナリ

大雲龍オホウンレウ小雲龍コウンレウ上テニ通トアリ元
青磁セイジ水指スイササノ紋モノヲ紹鴎セウオウウツシ置
タル画エヲ以テ利休リキウ釜カマニ写シ侍
サセタルナリ 何レモ筒ツツ釜カマナリ 大
雲龍ウンレウハ天明アキラ小雲龍コウンレウハ甘蘆カンロ屋ヤ作
ナリト云小雲龍コウンレウハ湯相ユサ火相ヒサ六カシ

手取



甚イ名 坡ノ路居士所持ナリ

狂歌

てんてんてんてんてん
てんてんてんてんてん
てんてんてんてんてん

釜ノ形^{カマ}志^シの^ノお^オも^モ種^{タネ}く^クあ^アま^マと^トん^ンの^ノま^マの^ノま^マ
な^ナま^マの^ノお^オも^モを^ヲ仕^シ掛^ケる^ル美^ミ別^{ベツ}定^{テイ}ま^マの^ノま^マ
は^ハ掛^ケを^ヲ以^モて^テかん^{カン}ぐ^グぐ^グ

○ 風炉

唐銅 鉄

風炉の形品々なるもの急記一が〜カカラカ子鉄

と〜炭の〜と灰つ〜及〜も〜口の

明〜風炉ハ土器の上小つ〜灰〜

灰〜火気の心づ〜惣様

灰つ〜

○ 油煙風炉

軸足 乳足

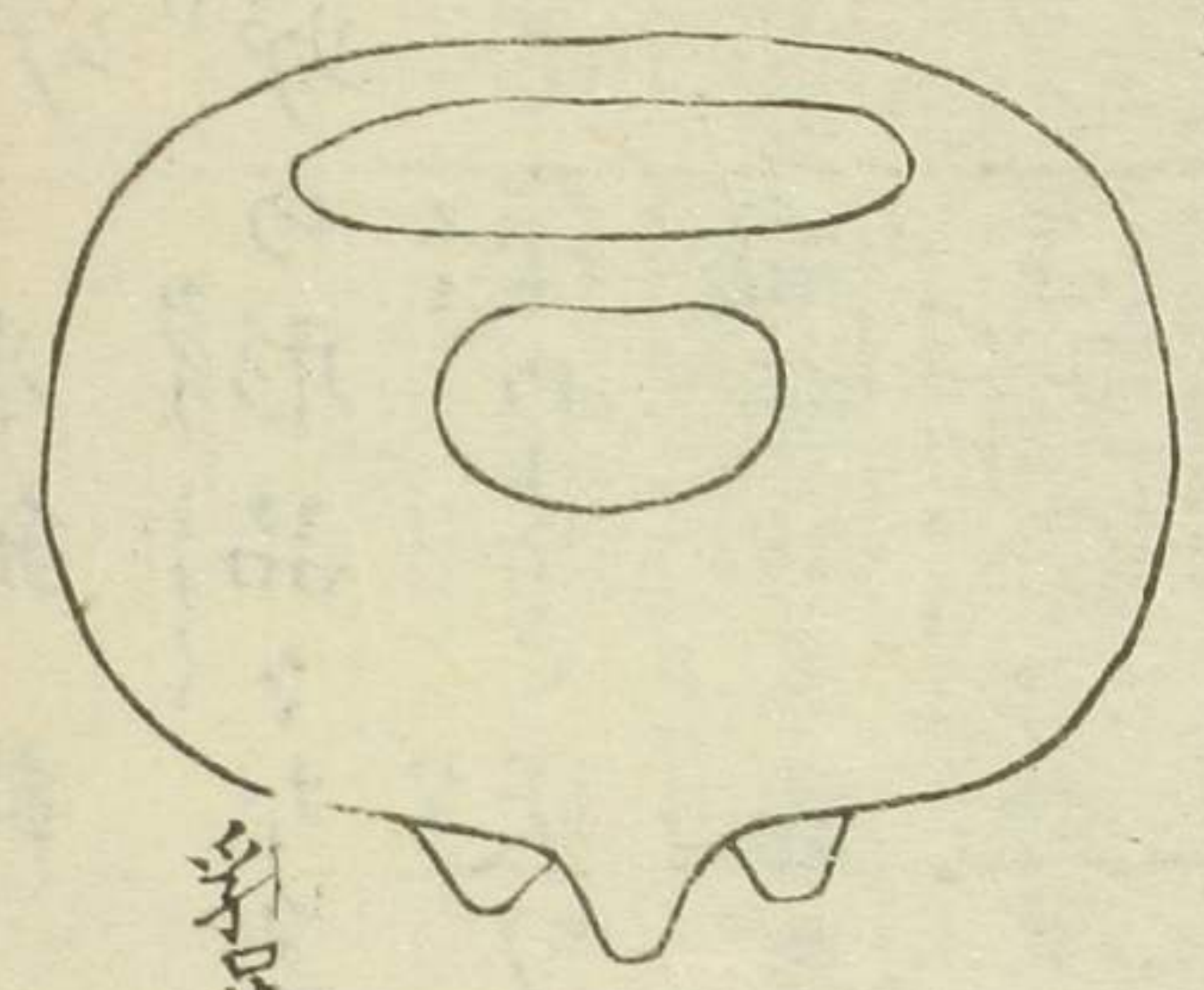
油煙風炉ハ熏〜風炉ナリ土風炉の急炭の〜

大正代月用少四編上

茶式月抄四編上

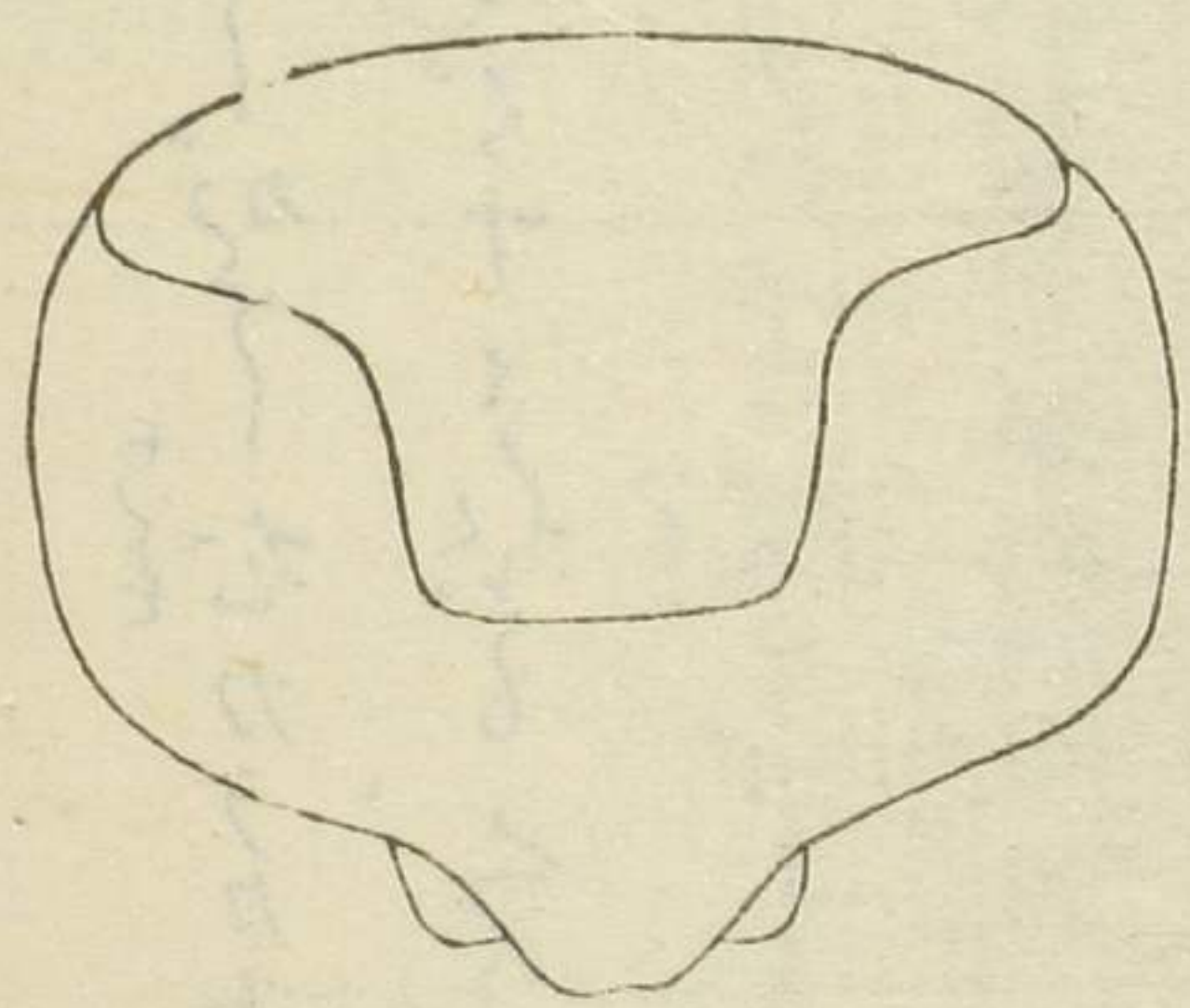
灰ハイつるべトラスミ 桐炭トウタンなどのわらうて火ヒ気キつるべトラスミ 所トコロふ
 灰ハイと高タカくおおぶぶ火ヒ気キの用捨ヨウセツ要ヤウなる眉メイの有アリ
 無ム軸チク足アシ乳ニ足アシとも小土風トフロ炉ロカラカ子コ 鉄テツももあり

リア眉



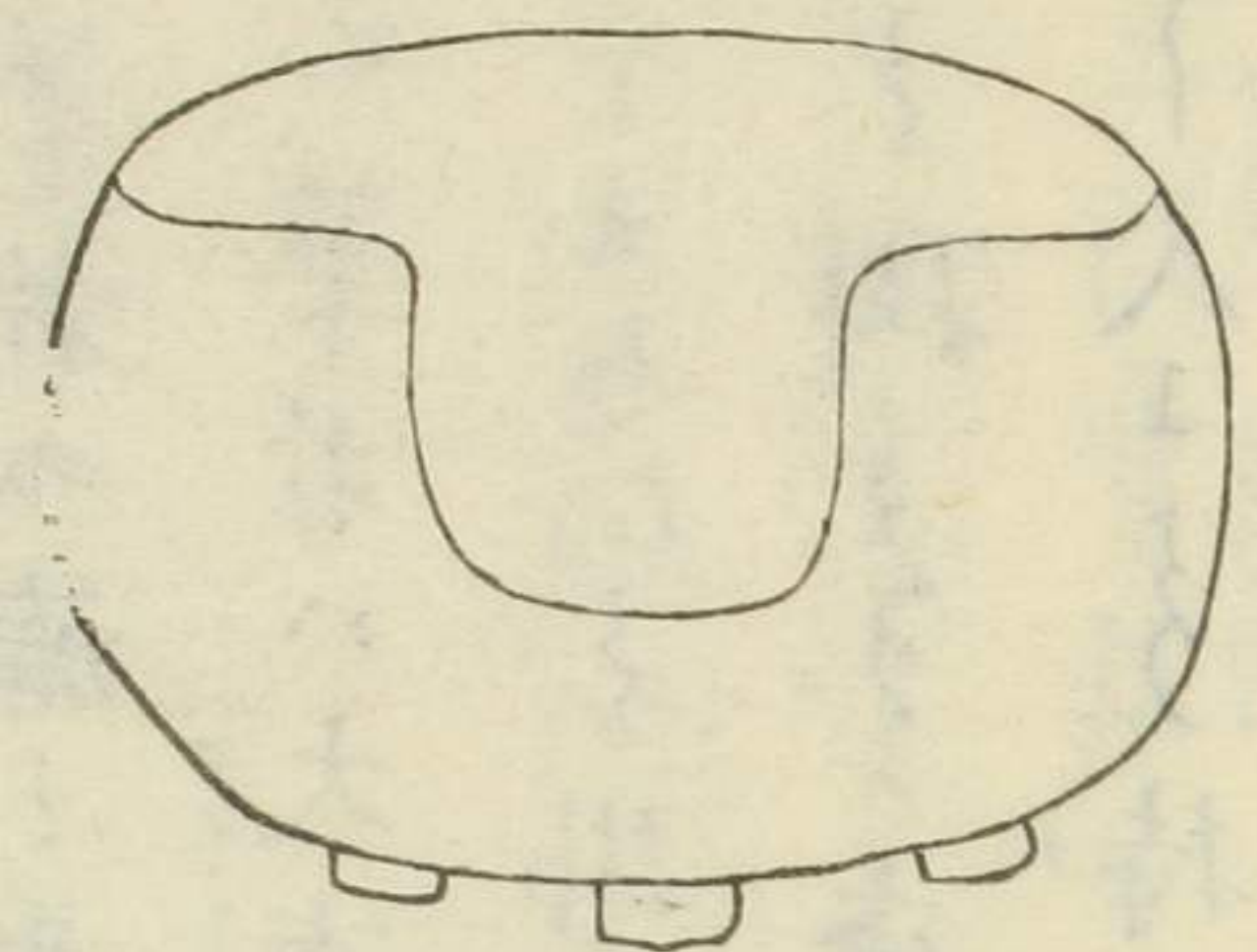
乳足

シナ眉



乳足

○ 掛物カケモノ



軸

猶種々の形あり

とびつらふとびつらふ
 まあまあまあま
 の記

掛物カケモノの第一の道具なる客亭主サシも茶湯サニ三味の
 一心得道ボクのそけセキより墨跡ボクと第一と守マモをその

茶式月抄四編上

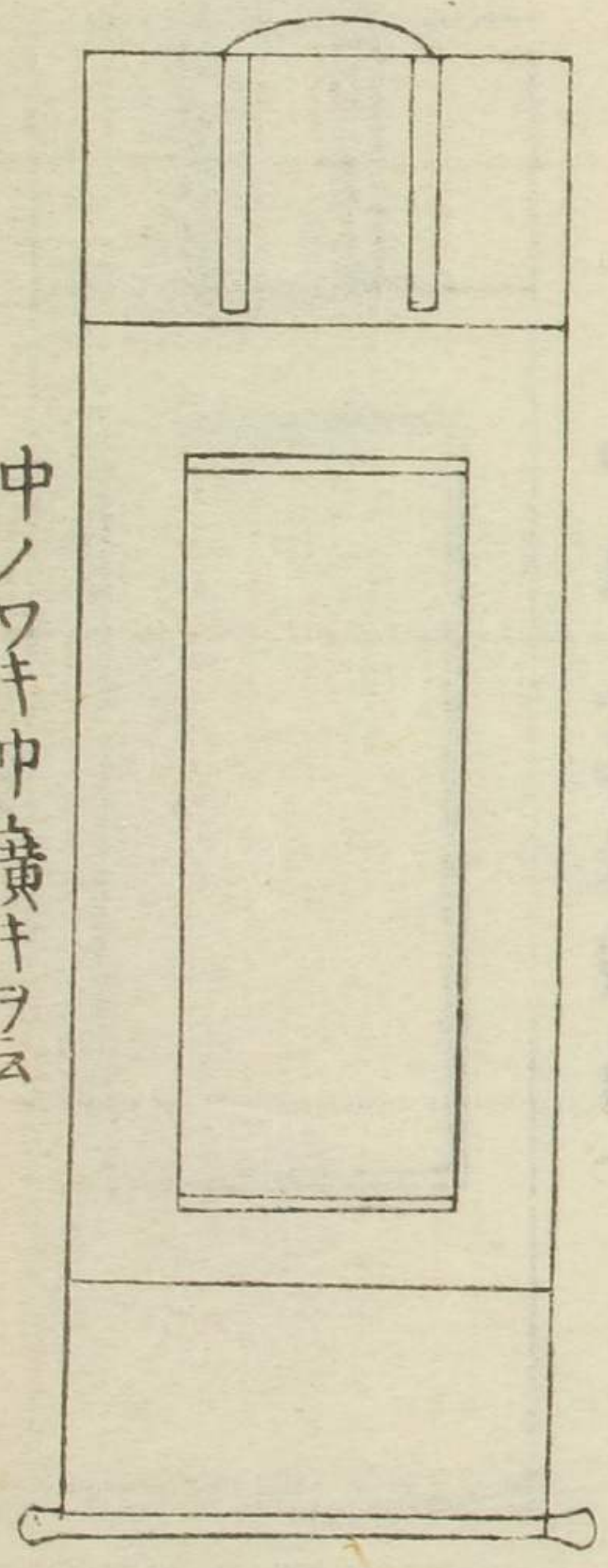
語勺の心やらやまひノ筆者道人祖師ノの徳と
 賞翫シヤウクワンする處なほ倍筆の物の掛マケるマケるマケ
 ふれども哥人道哥なむと掛マケるマケるマケ佛語祖語
ヒツシヤと筆者の徳と兼りらゆきヒツシヤと重宝とす
 まゝタイトク筆者の大徳とすタイトク有るれども佛語祖
 語ゴとりらしめて掛マケるマケるマケ二とす繪も筆者ゴ
 よろゝ掛マケるマケるマケ唐僧の繪ゾウソク佛祖像人形画
 多し人よチブドウ持佛堂のすうなるチブドウ嫌人キヤンジンも

あイテ一段賞翫と掛マケるマケるマケ飲依キユあゝコト事別ベツ
リキウなる利休リキウつらつらツクキや書ツクキの記茶入茶碗其外ソノホカも
 てと道具ドウグの證文シヤウモンとるベツ別ベツ賞翫シヤウクワン
 掛マケるマケるマケ
 ○クテカキモ堅クテカキモ考カウ相ソウ様ヤウ座ザの心ココロねネあアりリ摸ボ相ソウをヲ下シつツまマうウ
トコハカのノ天テン井ゼツをシけケ堅クツ相モをシてス終ハシりリなナるル天テン井ゼツ
 とあアげゲるルこコらラもモ我ガ秘ヒ藏ザウのノ名ナをヲ名ナおオほホうウ
ホカなるナりリ別ベツ相ソウのノ心ココロあアるルこコらラもモ我ガ名ナおオほホうウ

絵の古絵 三キエ 唐リ 三キエ 向く 今キ 床の
つげやうの得 三キエ 二ツ打 今キ 大接 三キエ
とふけ又中の 緒 今キ 両銀 今キ 掛 今キ
あり口付

○墨 今キ 茶 今キ 半 珠光のとき 圓悟 今キ
師の墨 今キ 掛 今キ 利休の時
大徳寺 壇越 今キ 大徳寺の先徳 今キ
尚なごり 今キ とも月 今キ 多し 今キ 大
徳の 今キ 下 今キ 月 今キ 今キ 今キ 利

燈補

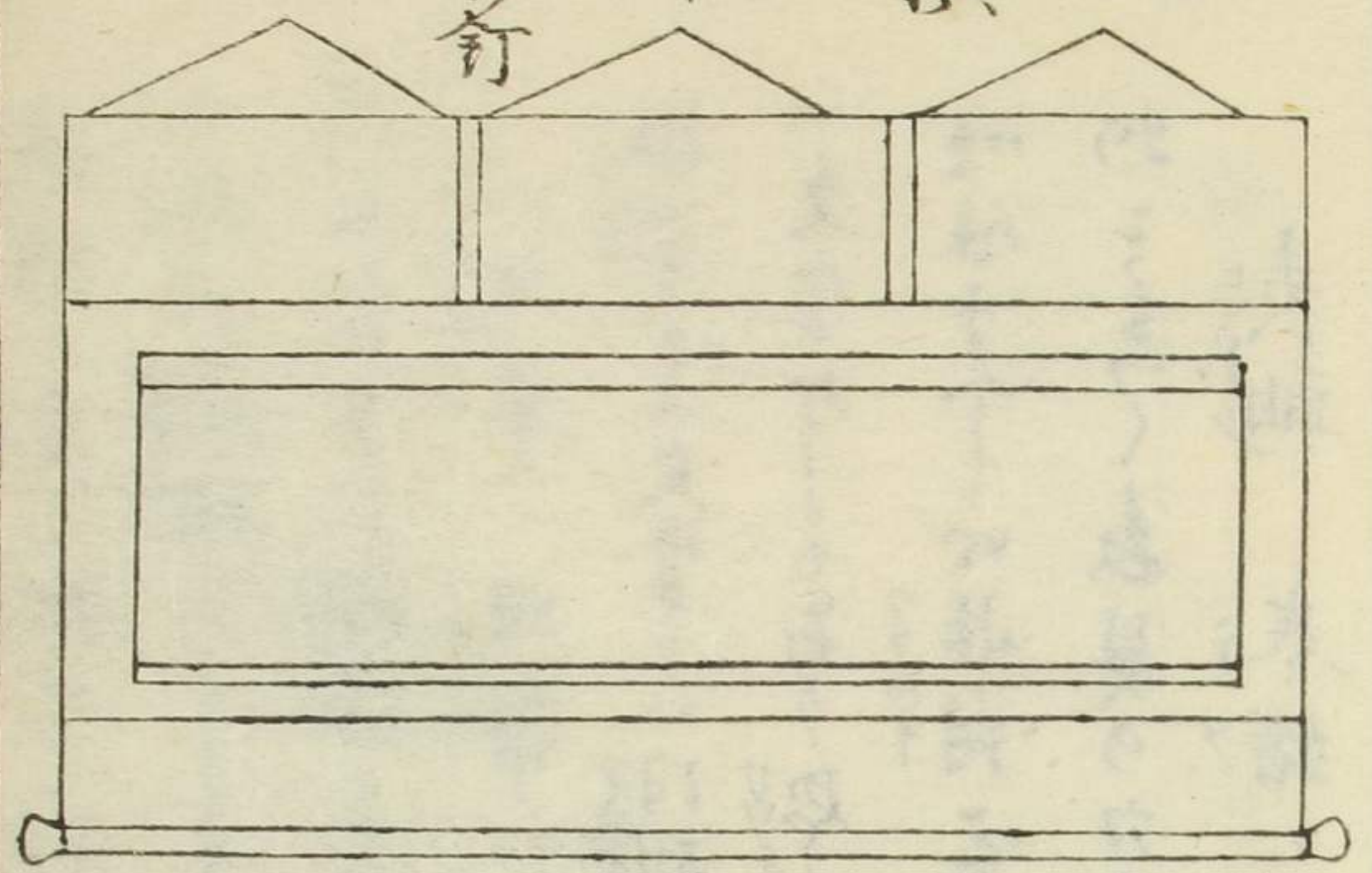


中ノワキ中廣キヲ云

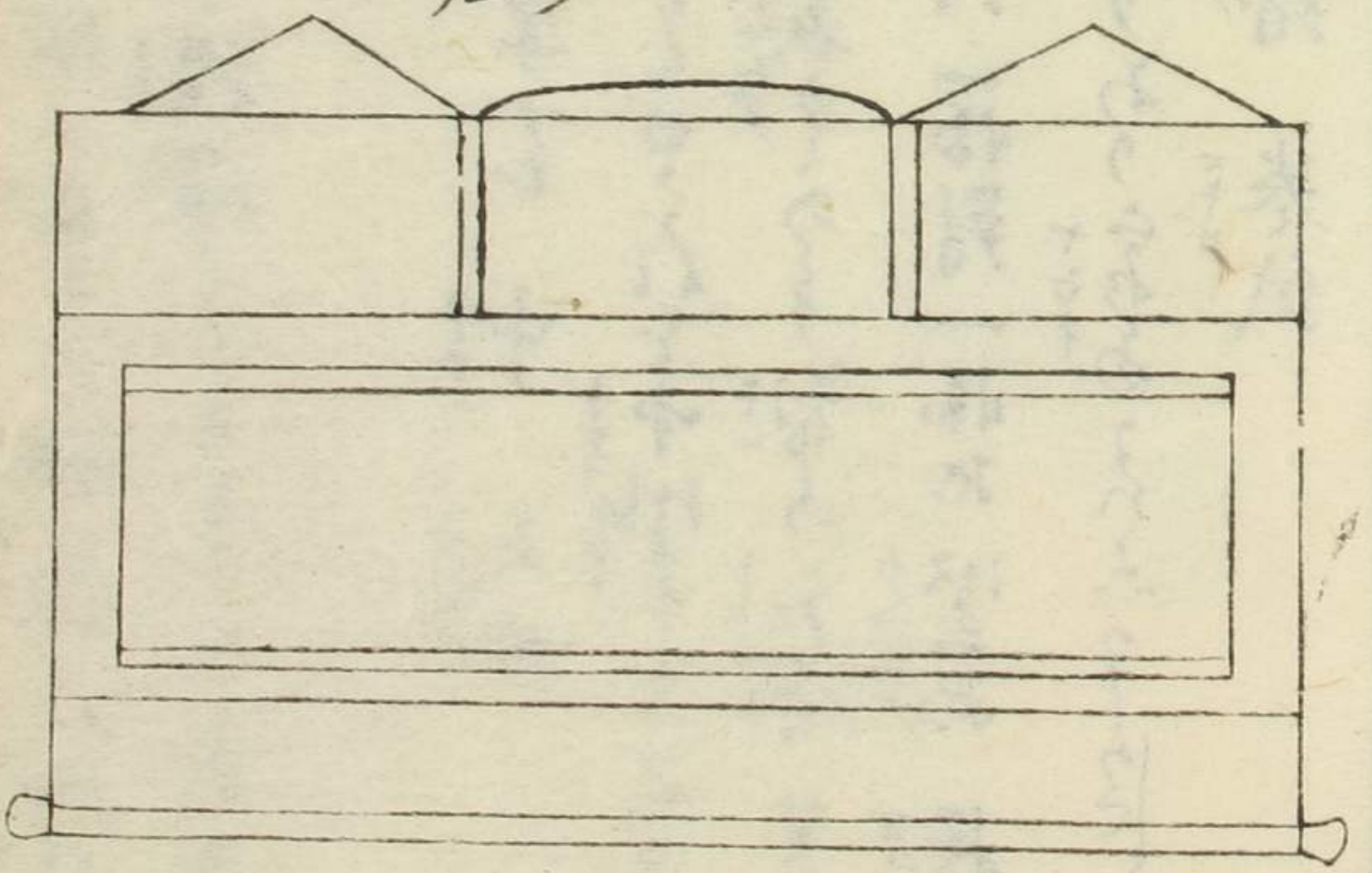
休のとき 差別 今キ 細ハ 東坡和尚の墨 今キ
しそりら 今キ 拜領 今キ 今キ 東坡 曹洞流の 今キ
備 今キ 今キ 墨 今キ 古筆 今キ 一箇 今キ
今キ 今キ 今キ 今キ 今キ 今キ

茶式胡月抄四編止

大横物 三釘



同 三釘中 量

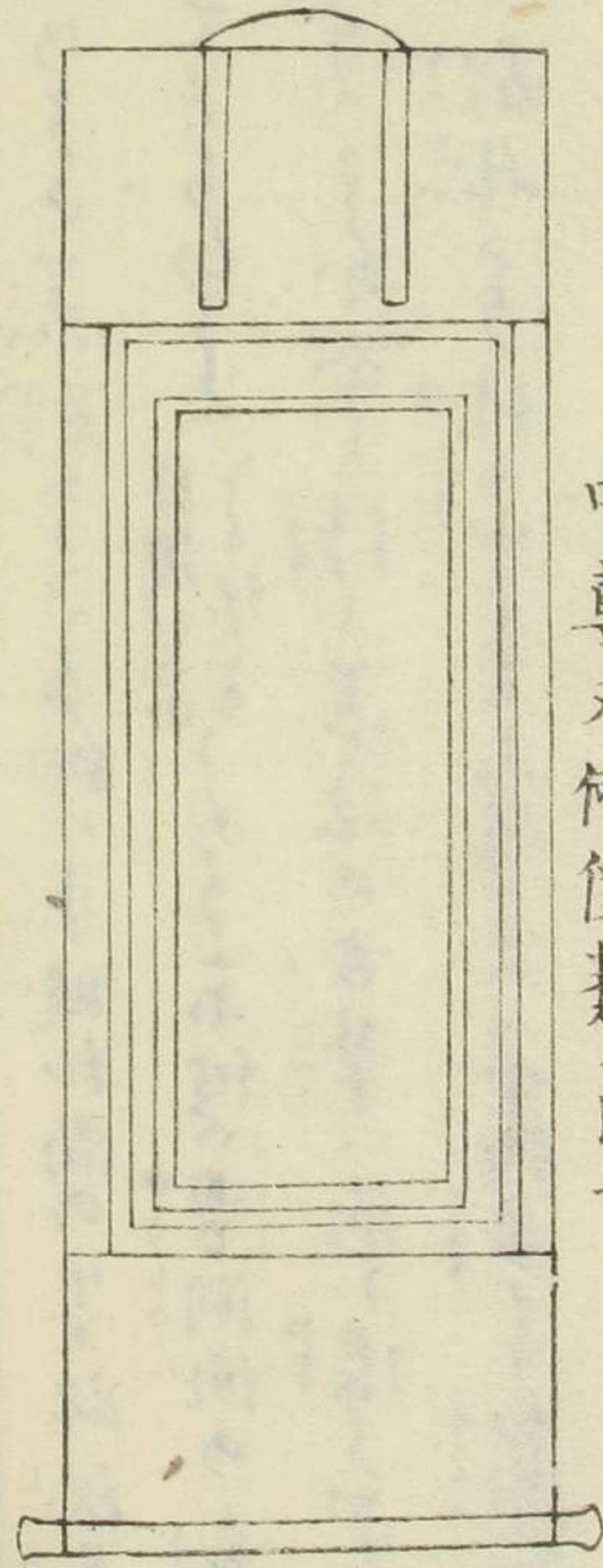


止

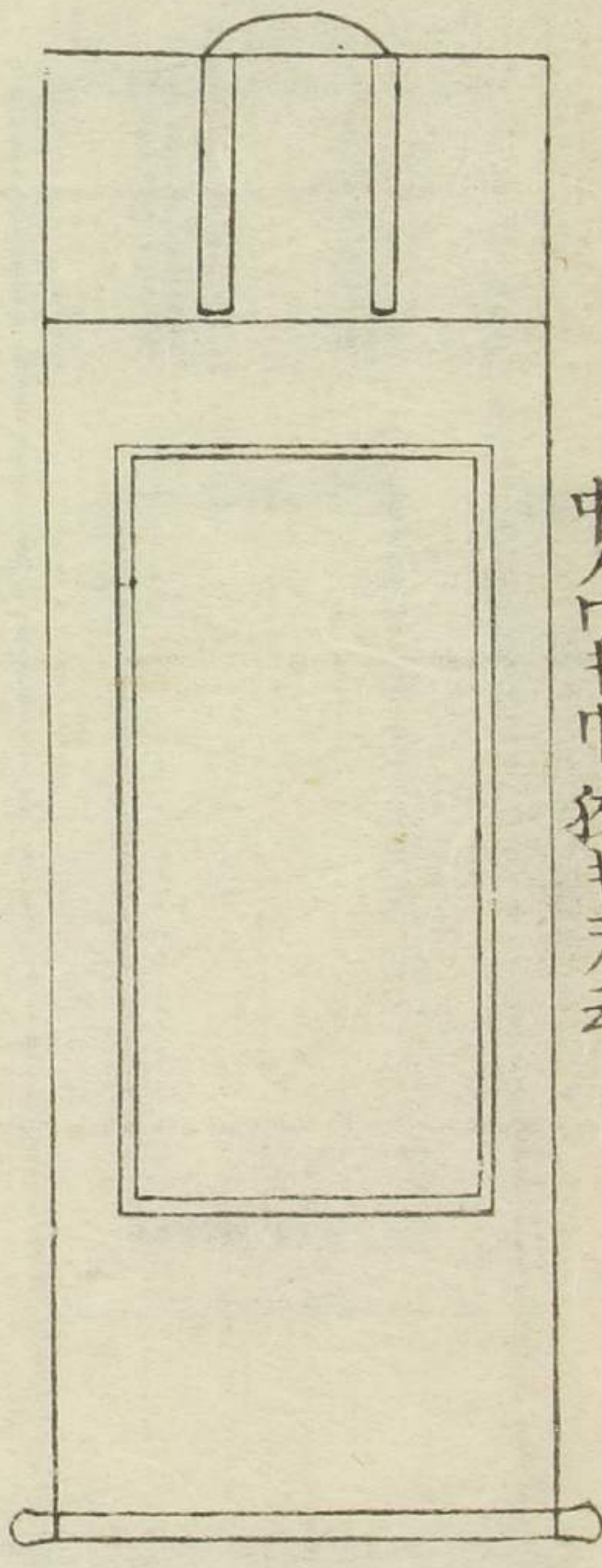
茶式胡月抄四編止

袿補 ヒタナ

輪補 リンホ



中尊又佛像類ニ用ユ



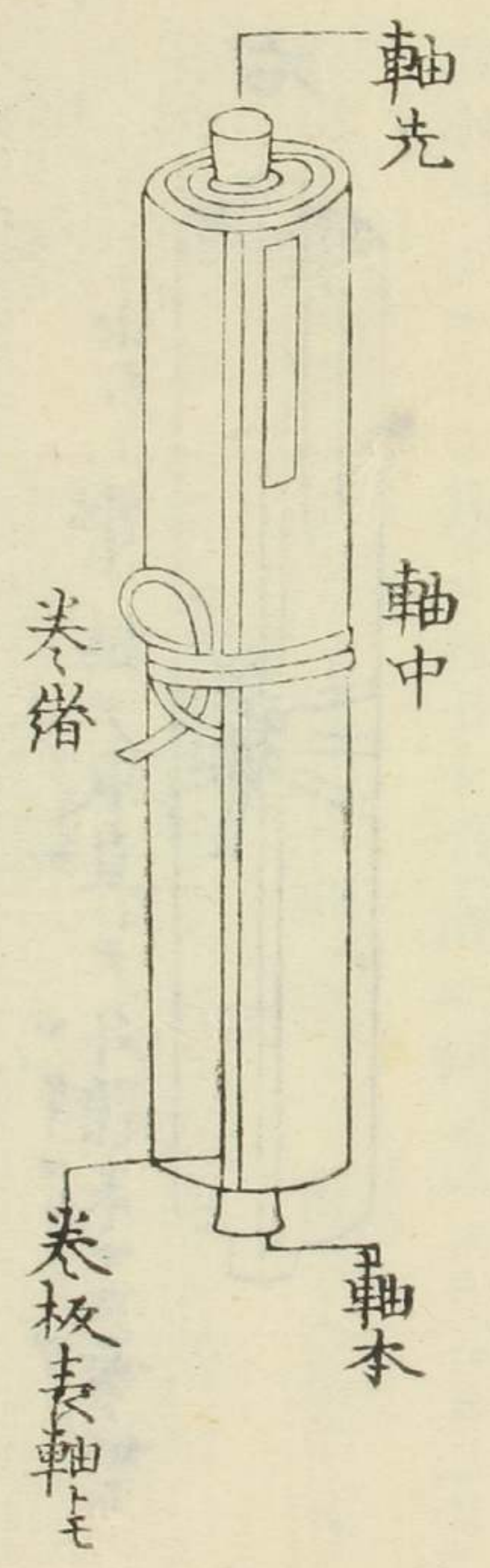
中ノワキ巾狭キヲ云

○裱補ヒラキホの真マコ。禮補レイホの行ユキ輪補リンホの草クサなり佛像ブツゾウ祖師ソシ像ゾウの外ソトの裱補ヒラキホふするものなり禮補レイホうらさとも表具ヒラキ乃らるるもの輪補リンホもよう

一文字イチモジ 風帶フウタイ 一文字イチモジ 中ナカ 天地テニチ

風常フウジョウ一文字イチモジとては割ワケとらるる中風常ナカフウジョウとては一文字イチモジなりもあり也サとて表具ヒラキのよう割ワケの都合トリアヒも明味アカシすべしは福射フクシャ二福射ニフクシャ一福射イチフクシャ堅ツツモお換ヨコ物モノとては表具ヒラキの力子チカラコワリありらるるものなり

表軸ヒラキ 表緒ヒラキ 掛緒カケ 表紙ヒラキ



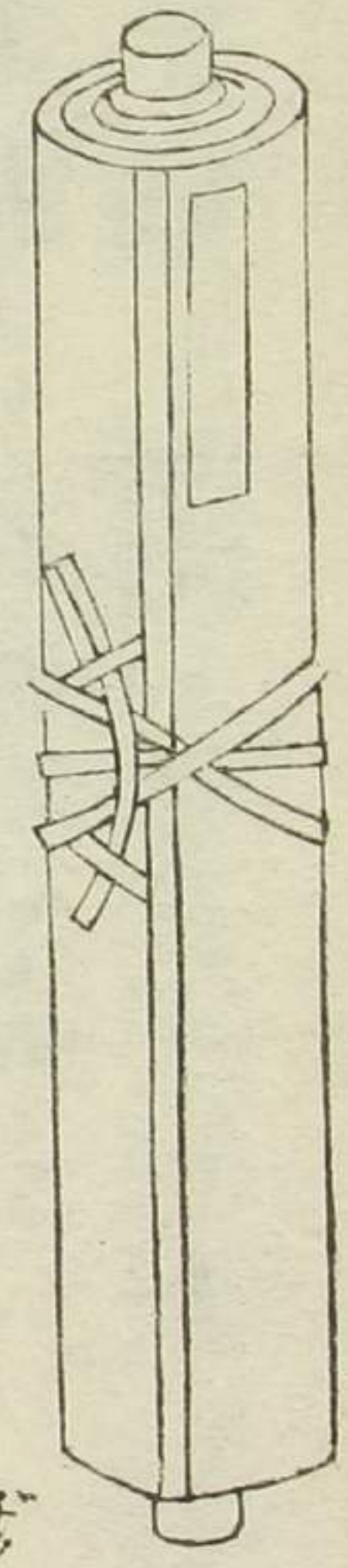
表紙ヒラキのこの紙カミを用ヨウの年号トシガタまたは表具ヒラキの所トコロ名印ナイン刻キをいして並ナラべてあり名物イハブツの表紙ヒラキの裏ウラよりてくるべし

○掛カケやう巻マキやう巻緒マキヲ引ヒキやうのもの掛カケやう座イハの吹フク送ソウよまらるるひ表具ヒラキを繕カツテ直ナへしべし

二幅對

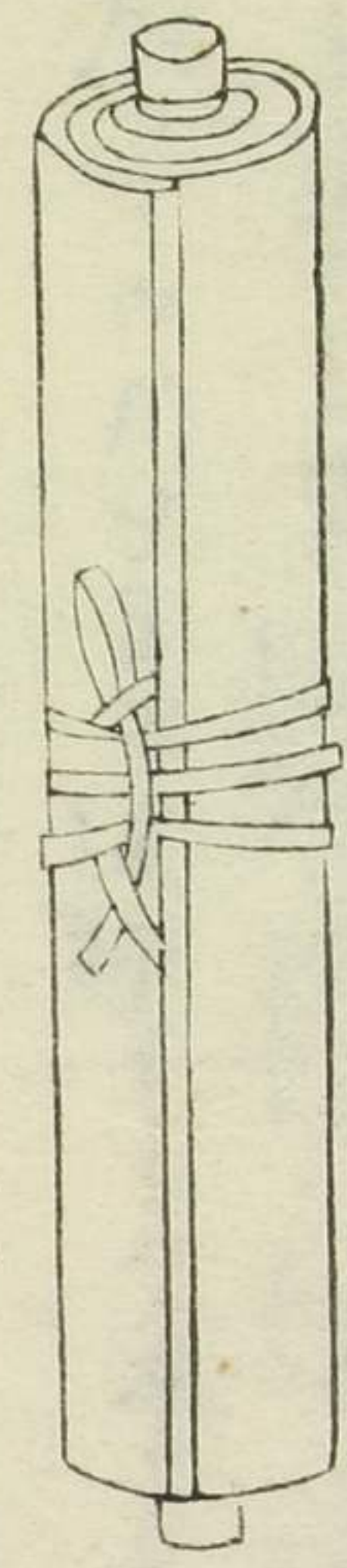
表板ノ上ニテチカヘテ三巻ノワチヲ上ニス

左



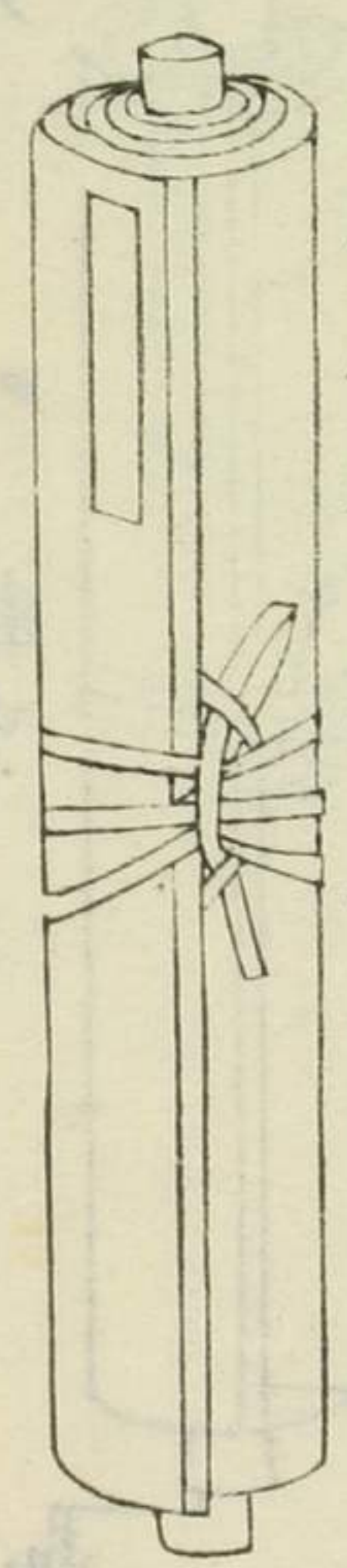
中下へかく三巻ノワチヲ上ニス 但一軸モ同シ

中



中左ト登ル軸ヲ取直シテ外題巻マツ番ノ如シ

右



左右モグルくと巻テモヨシ順逆心得サヘスバヨキナリ
 カヤウニ差別シテ巻オケハ三幅對ナト開テ見ズル
 中左右知ルナリ但一幅モム巻ヤウ中ト同ジ

○ 外題飾

外題押様

外題のあり掛物と掛すゝ先かゝり色工あり
 外題のあり小幅のあり床の入りふらぐり大幅物も
 床綴ふかゝり草菴小床の二幅をり巻緒ハ二
 幅對の中よりまゝなうなる床の入り飾るもの床の
 順違ふまゝひいてりたのゝか小飾るゝまゝ又よむ

鏡も有 秘年 大福のわの床の積り三分一ト
 注の方のや 逆床のときハ 融年と上世
 和歌文のあまのよろこも一後もあまの床の
 順運ふまごひく 軸かもりなまなすく 和歌の
 押やう 前記のあまの

○ 順床 逆床

南面北面の書院 窓のあまのき式はもあり
 和歌のふまごひく 順運あまのき式はもあり
 繪掛竹 和歌のあまのき式はもあり

○ 花入

竹筒 尺八切 一重 二重 釣筒

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 二重よもふらたをけけ又上のをあげく下らうらう
 けけ花のうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

カゴ

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 和歌のあまのき式はもあり

票スベ

霧日カゴあると水がくぐりず

音セイ磁レン

古銅コト

別ヘツ儀ギなす元銅カネのそせい卓サマシ菴アツふ好コトまがず四シツ半ハチ一

お急サウうりさソらノむカもノ自ジ然ゼンのハちチをモりラの

耳ミミ附ツキ

客キヤクけへ三ミふフへヘしシほホるル心ココロあり故コト実マツ

舟フネ

床トコの志シ中ナカつる半ハチあり出デぬ入イぬるル宮ミヤあアらラへヘ一ヒトの

襷タタの旁ヘ舳サキ先サキなり惣ソウ々ゾ々ゾ名ナあアの花ハナはハなナりナとトも
堂ドウをセらラたタのノさサらラたタさサびヒくクさサびヒくクさサびヒくクさサびヒくクさサびヒくク
あアらラのノ花ハナはハなナりナ

馬バ盥ダラヒ

馬手洗トモ

古コ織オリ部ベあるととあアらラひヒふフあアらラまマふフ日ヒ初ハツのノ門カドより

花ハナおオさサあアるルあアらラひヒふフあアらラまマふフ日ヒ初ハツのノ門カドより

孫ムスビもモふフあアらラひヒふフあアらラまマふフ日ヒ初ハツのノ門カドより

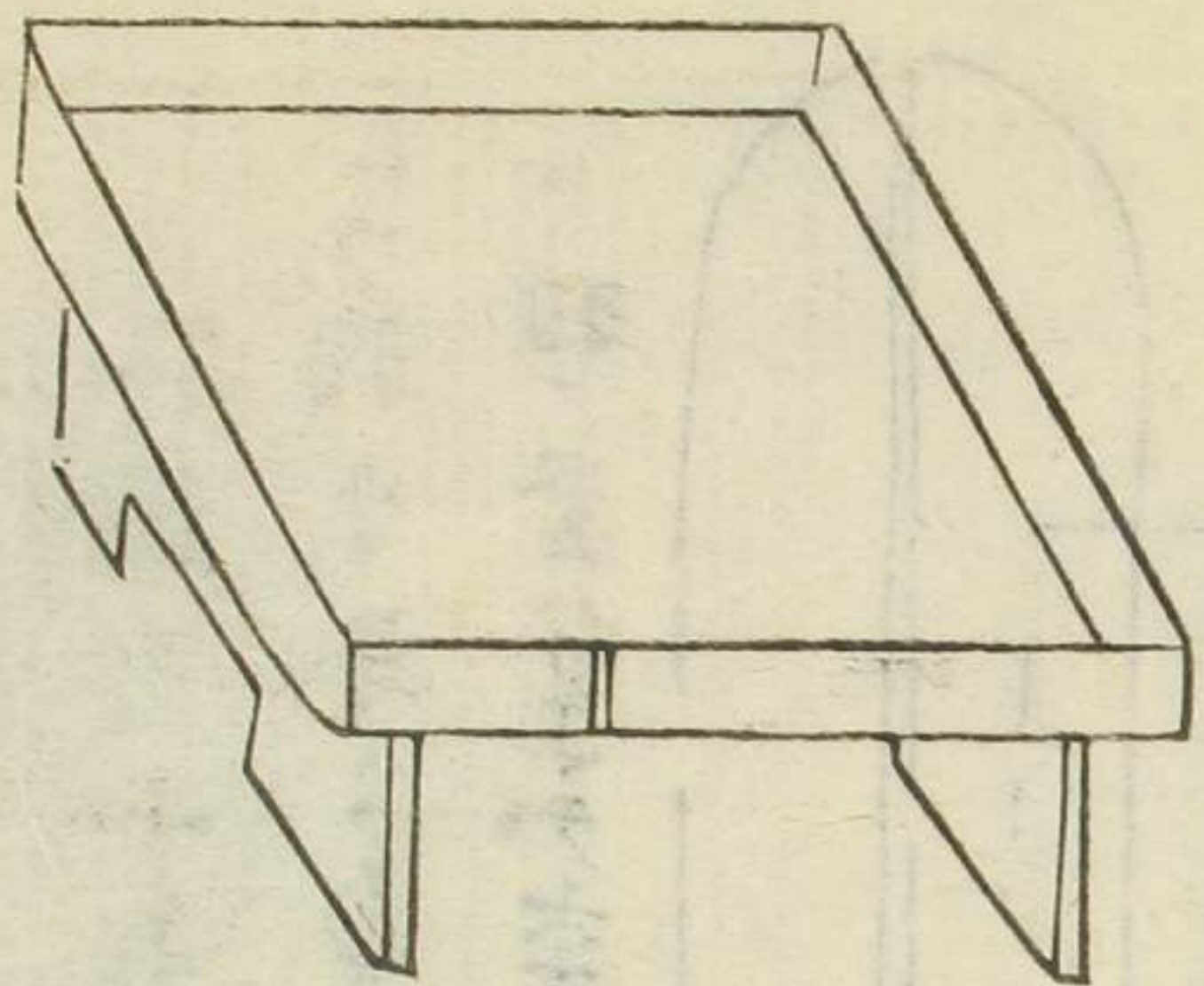
くクらラひヒふフあアらラまマふフ日ヒ初ハツのノ門カドより

しシらラひヒふフあアらラまマふフ日ヒ初ハツのノ門カドより

茶室の掃き出しをいふはひのまじりと申すはなかり
 たるは後の水指をあらうてする邊の水ごとあはゆる
 人もあつたなかり

○花折敷 小刀 手巾 水次

足お折敷のり小刀手巾水次ハシ一具ハシす
 水次の物ヤキモはまてカナソ細箸ハシをさへ花折敷
 のとと乃月かり



廿二目 九寸五ア
 手高 外一寸
 足高 三寸八ア
 同ヨコ 三ア
 同横 三ア
 切口 三寸八ア
 タテ 二寸六ア

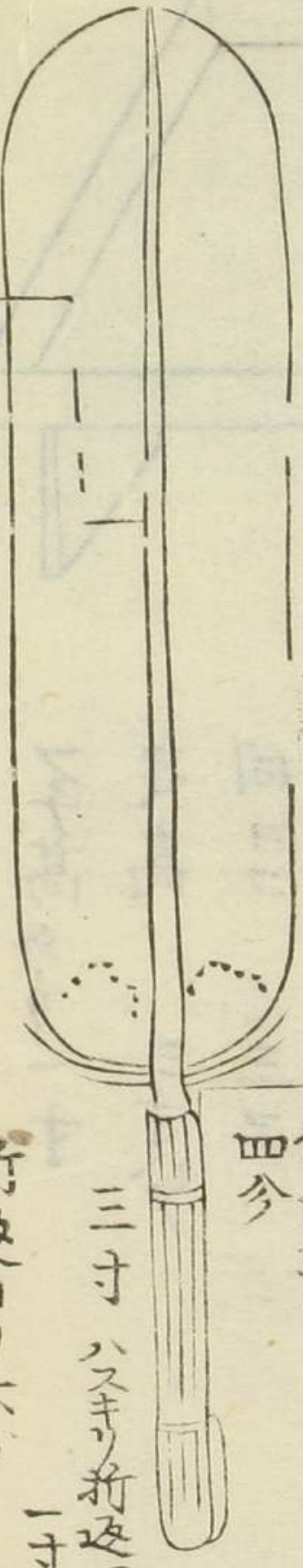
○羽ハサキ 筥ハサキ

ツカ子緒 三羽 小羽

つゝは緒ヲ大小あり草チモノ庵アトふゝ一段おりのりきまりの

こつ羽ハサキ寸ふらり

羽ハサキの堅ツカハサキテ六寸七分



ウラオモテハ
ニユルヤウニ
ツカズニ

羽ハサキキハ竹皮キハ
マテ一分
竹皮切ヨリキマテ
四分

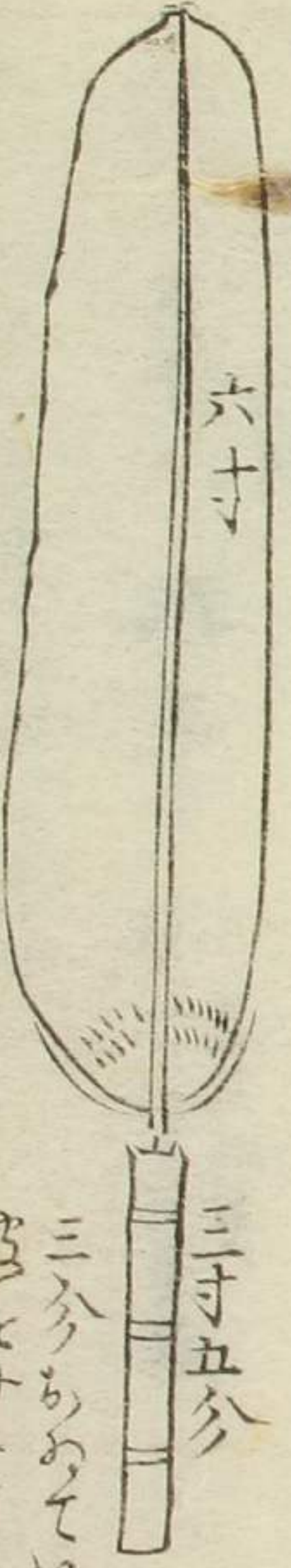
三寸ハサキ折返テ
一寸
折返ヨリ六寸
マキ目ニテユイアリ

○風フウ 爐カのりぬり一羽ハサキ

羽ハサキ先三寸五分 柄ツカ四寸五分

五寸五分
風切

○ヒト羽ハサキの厚カンの肩カクよりこつめ四寸の羽ハサキ柄ツカのり
折カはこゝに結ユヒなることこの結ユヒ目メより三寸
あめ竹タケはを折ヨリへるがま直スゲまよさるなり



六寸

三寸五分

三分あめ竹の
ばをすく

惣長サ九寸五分

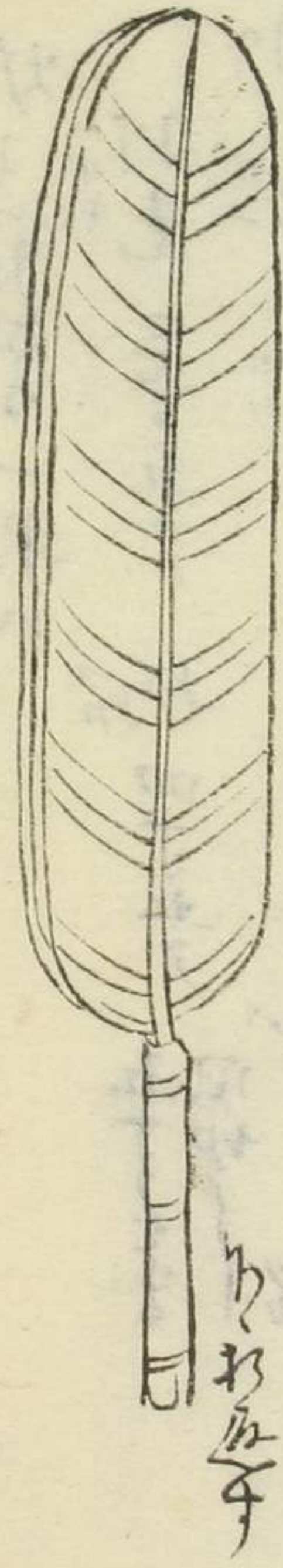
○三ツ羽を^{ハネ}羽の柄^{ツカ}竹の皮^{クバ}をつ^ツと右^{ミキハ}羽の右^ハの^ハ方^ハたり^{ヒタ}羽^ハの^ハ方^ハの^ハ方^ハなり^ハお^ハ返^ハす

羽 五寸 柄三寸 但一二分のぎ程
 なる^ハハ

○五枚を^{コイ}向^{ツカ}の柄^{ツカ}の^ハ方^ハの^ハ方^ハの^ハ方^ハなり^ハお^ハ返^ハす

ち^ツぐ^ツ柄^ツの^ツ竹^ツの^ツ皮^ツを^ツ結^ツ合^ツし^ツ用^ツひ^ツ又^ツ紙^ツを^ツ結^ツ合^ツし^ツも

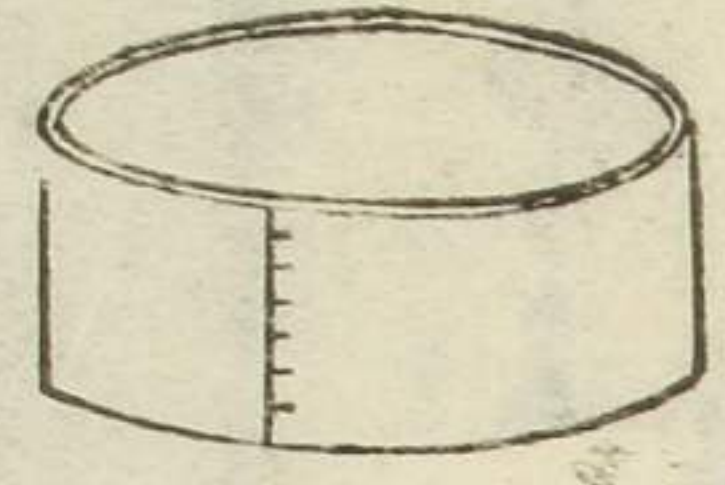
○尾^ツを^ツ用^ツひ^ツる^ツ帯^ツの^ツ方^ツへ^ツお^ツろ^ツう^ツす



り^ハお^ハ返^ハす

○建水面桶 ^{コホレメンツ}

木杉^ハ



外^ハリ 二寸六分 外^ハリ 廣^ハ五寸七分 板厚^ハ一分ヨ
 ソコ板^ハヲ^ハニ^ハ入^ハユ^ハリ^ハ
 表^ハ合^ハ目^ハヨ^ハリ^ハウ^ハラ^ハム^ハメ^ハハ^ハツ^ハレ^ハテ^ハ 四^ハ寸
 表^ハカ^ハワ^ハト^ハチ^ハノ^ハヨ^ハリ^ハウ^ハラ^ハノ^ハト^ハマ^ハリ^ハノ^ハト^ハチ^ハメ^ハテ^ハ 三^ハ寸^ハ六^ハ分
 表^ハ板^ハハ^ハツ^ハレ^ハヨ^ハリ^ハカ^ハワ^ハメ^ハテ^ハ一^ハ分
 ト^ハチ^ハメ^ハ十^ハ六^ハカ^ハワ^ハノ^ハハ^ハ一^ハ分^ハツ^ハヨ^ハシ

しら^ハ目^ハ我^ハあ^ハら^ハふ^ハべ^ハー^ハち^ハち^ハし^ハき^ハく^ハち^ハん^ハち^ハち^ハも^ハち^ハん^ハち^ハず

三浦月抄四編上

○袋柵

袋柵の紹歌小初^{セウコウ}了^{ハヤ}の^ノ後^{ノチ}置柵^{オキガチ}數多^{アモク}出來^{シユツライ}す

と^トい^イども^{ドモ}袋柵^{フクロガチ}小^コ過^{スギ}る^ル柵^セか^カー^ニカ^カネ^ネ万^{マン}小^コ調^{テウ}ひ

て^テ臺^{ダイ}子^シ及^{ヨリ}其^ノ臺^ノり^リも^モ芳^{オホシラ}る^ル柵^セか^カり^リ紹^{セウ}歌^{カウ}の^ノ歌^カ

わ^ナら^ラる^ル大^{オホ}黒^{コク}屋^{アン}と^トり^リか^カん^ンど^ド

秘^ヒ藏^{サウ}ハ^ハこ^コあ^アら^ラる

か^カら^ラる^ル秘^ヒ藏^{サウ}ハ^ハ常^{ジョウ}任^{ニョウ}ニ^ニか^カら^ラし^シま^マす^スと^トか^カん^ン

海^{ウミ}の^ノ京^{キョウ}都^ト室^{シヨウ}河^カ四^シ束^{スツ}の^ノ北^{キタ}か^カる^ル菊^{キク}水^{スイ}之^ノ比^ヒ津^ツの^ノ住^{ジュ}人^{ジン}

一^{ヒト}住^{スミ}居^イせ^セり^リの^ノ名^ナ 姪^{エビス}子^シ大^{ダイ}黒^{コク}の^ノ名^ナい^イら^ラる^ルを^ヲか^カり^リ

と^トて^テ大^{オホ}黒^{コク}屋^{アン}と^トり^リか^カん^ンふ^フか^カを^ヲか^カき^キを^ヲか^カけ^ケし^シま^マす^ス

仕^シ女^メの^ノ名^ナい^イら^ラる^ルあ^アら^ラは^ハま^マの^ノ心^{ココロ}持^{モチ}と^トり^リ

い^イら^ラる^ルも^モな^ナま^マい^イら^ラる^ルや^ヤ院^{イン}の^ノ名^ナ平^{ヘイ}住^{ジュ}の^ノ名^ナ

の^ノら^ラの^ノ名^ナ半^{ヘン}の^ノ名^ナ仕^シ女^メの^ノ名^ナも^モつ^ツけ^ケな^ナり^リ本^ホの^ノ目^メ

の^ノら^ラの^ノ名^ナや^ヤう^ウ屋^ヤの^ノ名^ナと^トり^リか^カん^ンあ^アら^ラる^ル雨^{アメ}降^フり^リあ^アら^ラる^ル

海^{ウミ}の^ノ名^ナ手^テの^ノ名^ナの^ノ名^ナと^トり^リか^カん^ンあ^アら^ラる^ル院^{イン}の^ノ名^ナい^イら^ラる^ル

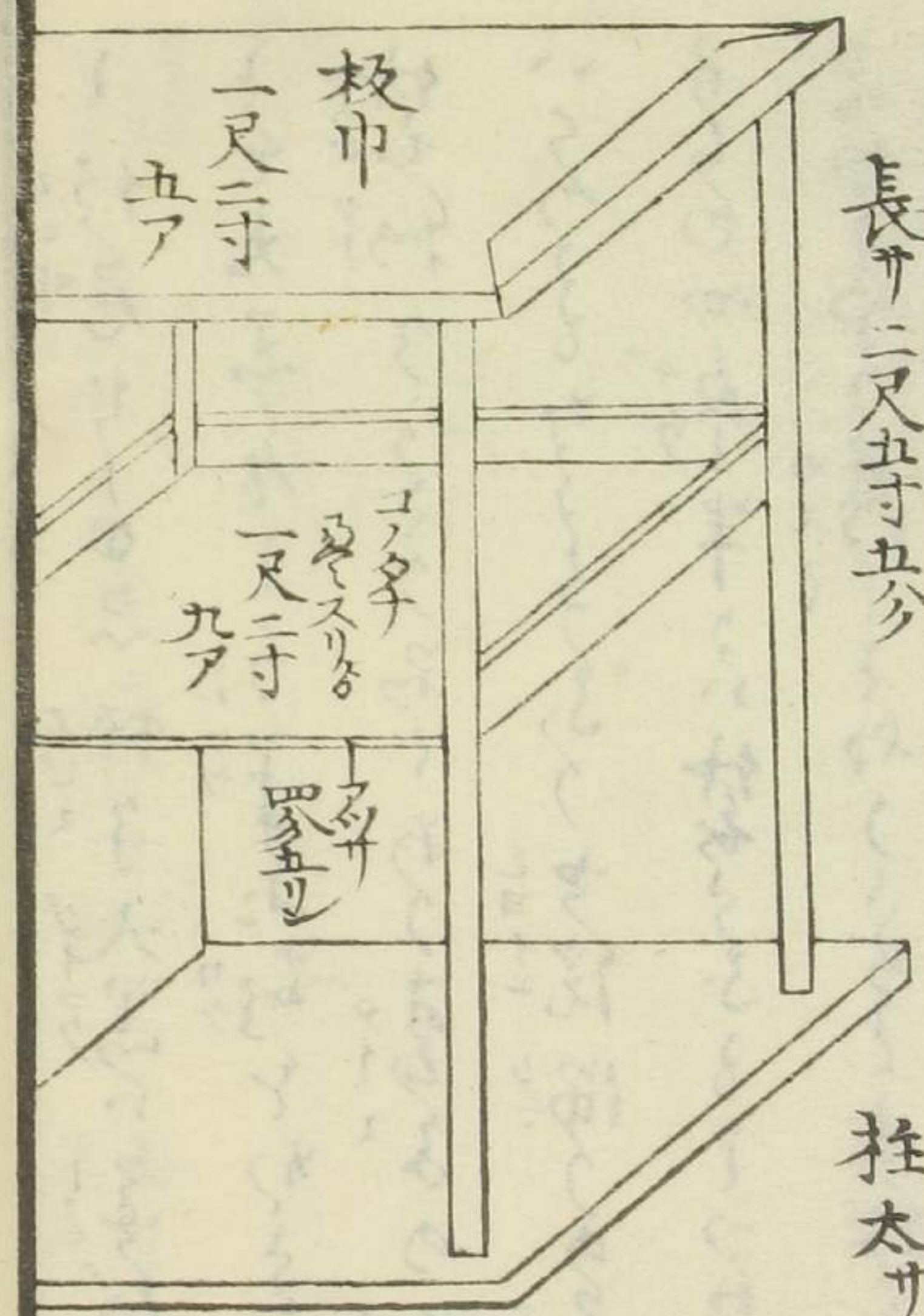
あ^アら^ラる^ルあ^アら^ラる^ル。か^カら^ラる^ルや^ヤう^ウ院^{イン}の^ノ名^ナい^イら^ラる^ル伊^イ編^{ヘン}の^ノ名^ナ

三浦月抄四編上

九

○袋棚寸尺

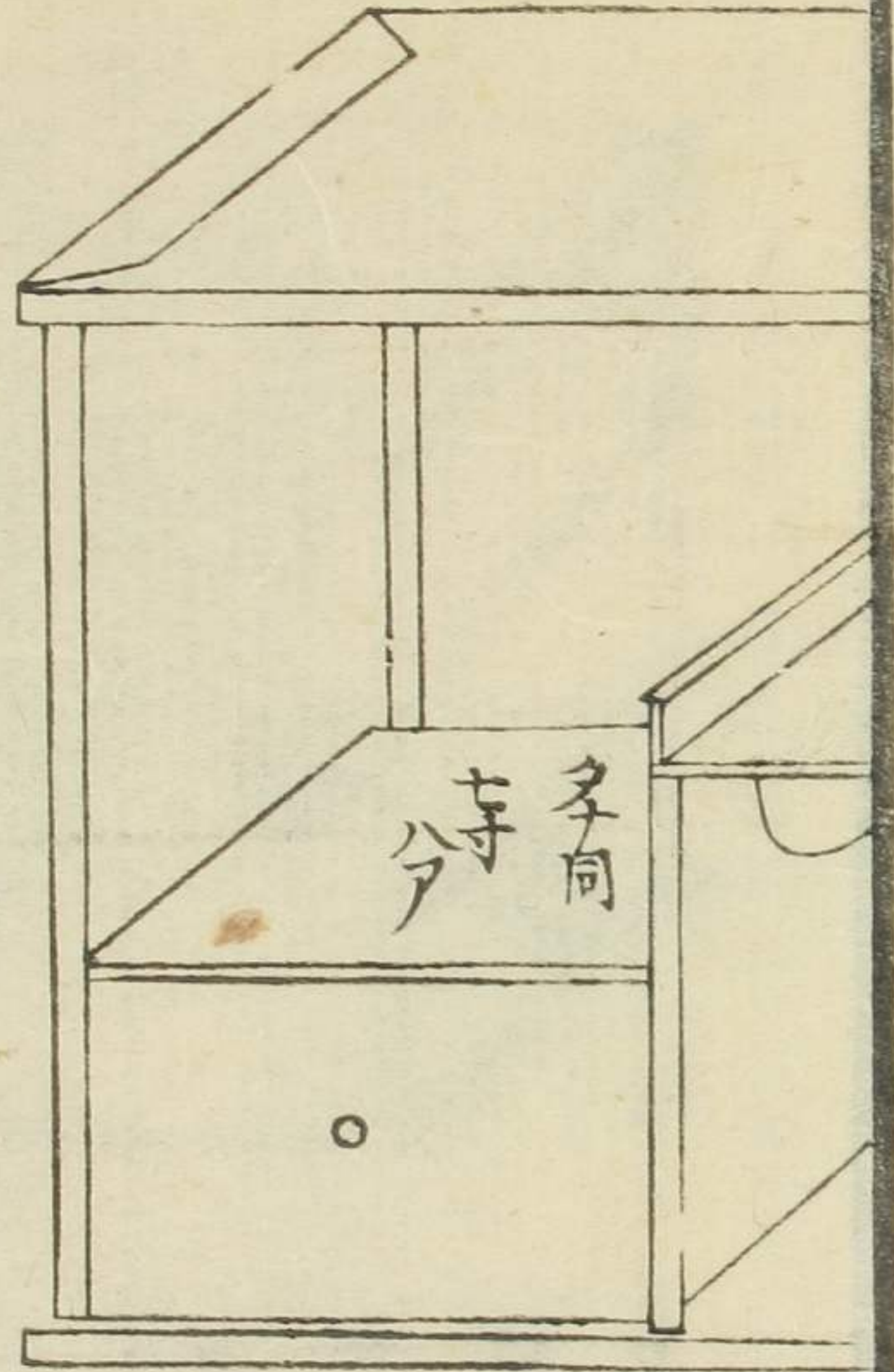
袋棚寸尺は初編の寸尺より大なるものと敷奇者
のとも再び出ず



高サ六三テ二尺
長サ二尺五寸五フ

柱太サ七フ

柱根
三フ

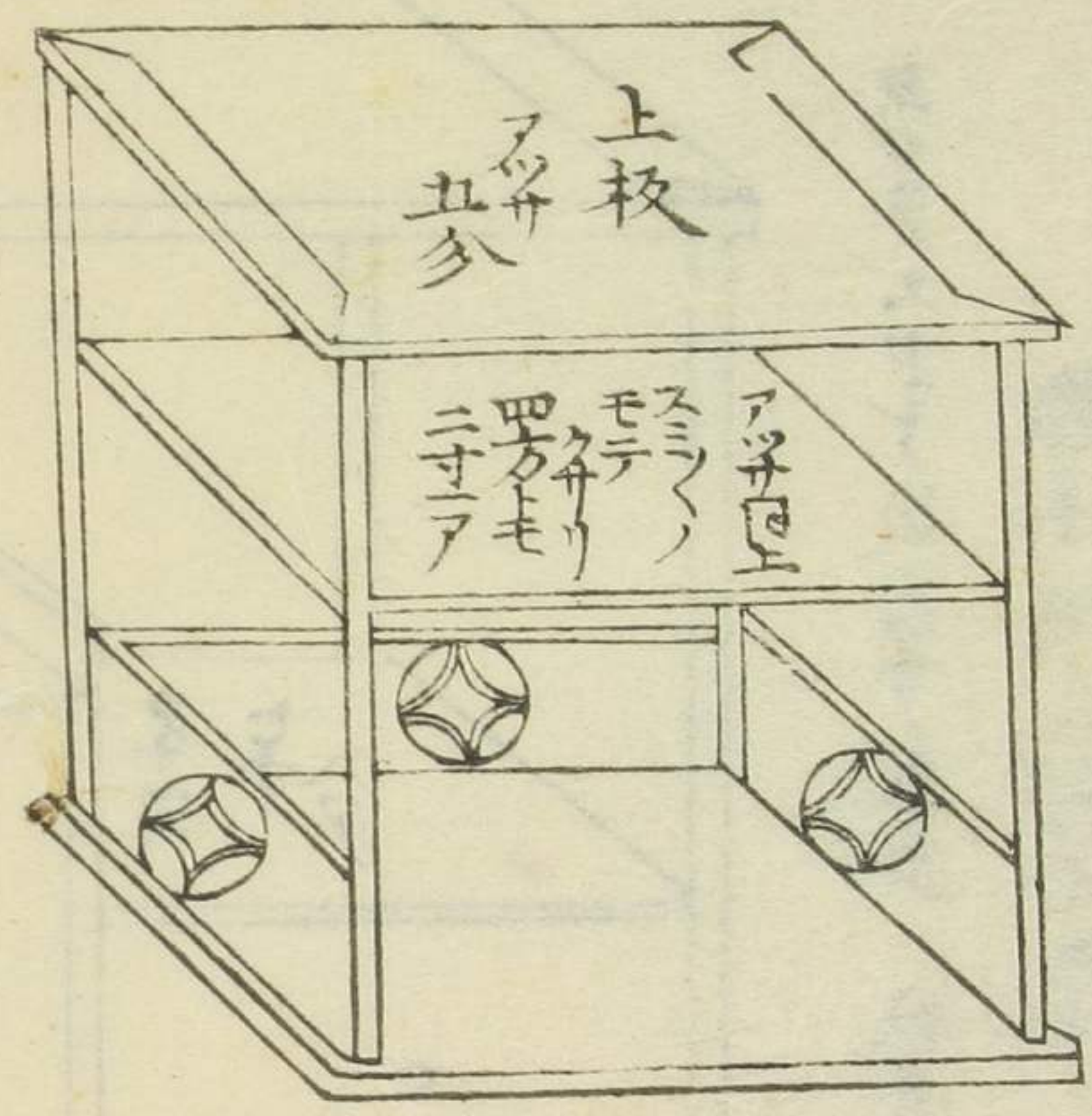


カッラスカシノ板
高サ六寸六フ

高サ六寸六フ
ヨロ一尺二寸四フ
又サ三寸
ツミ下ヨリ一尺五寸
ヨロ長サ一尺五寸
ヨロ丸サ一尺五寸

左右
フリワケ

○城樓棚 高二尺中一尺一寸 横一尺三寸

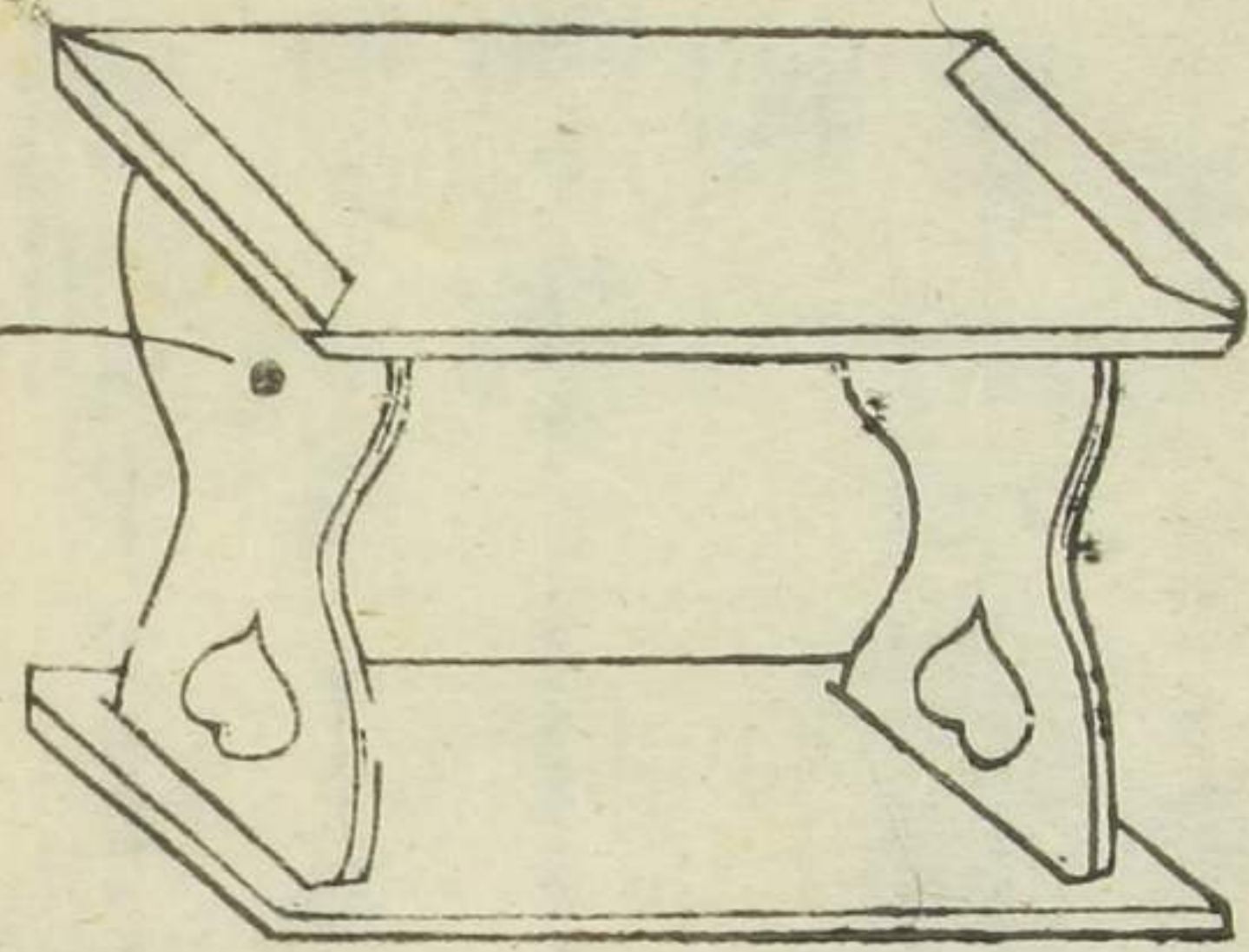


上板 八分
 コレ板 四寸五分
 中棚 五寸五分 六分
 一尺三寸
 柱 六分 七分 四分
 上板 中下 七寸
 八分 三寸

○棚板

右の天王寺屋宗及の好なりと云々宗及棚もついで
 又の袋棚の半分と云々半切棚ともいふなり所作の
 袋棚と心得をすむは袋棚も掛棚と云々中
 乃棚と揮干と云々云々番方虎の好なりと云々
 袋棚の地板と云々畧の好なり利休の好なりと云々
 と云々四の好なりと云々の好なりと云々の好なりと云々
 と云々の好なりと云々の好なりと云々の好なりと云々
 と云々の好なりと云々の好なりと云々の好なりと云々

○ 洞 棚 ホラダナ



ひらだなは、その名も如く、洞の形に似て、

高さ六寸三分内

上板四分 下板五分

入一尺八寸 横巾

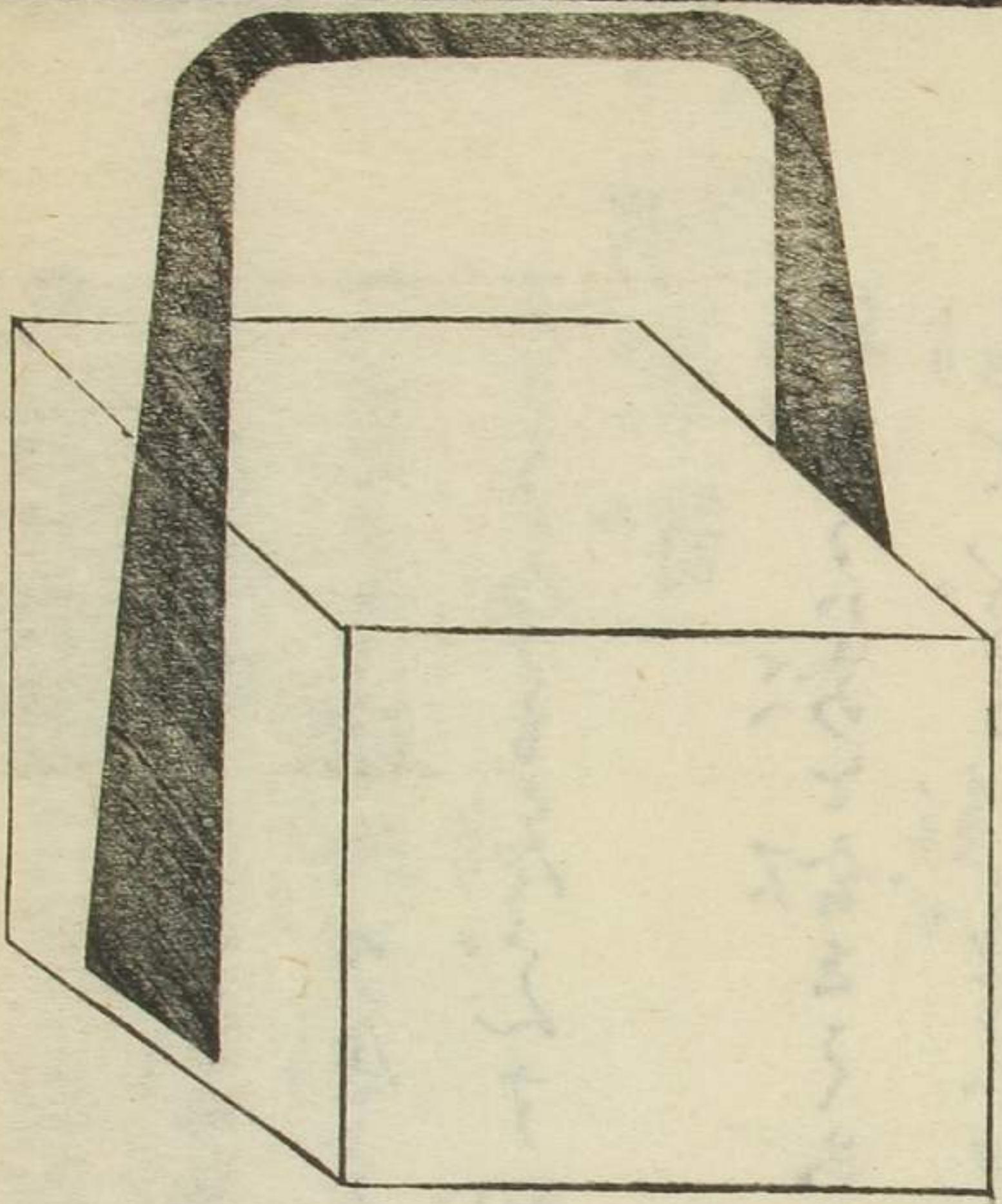
横板、外左右二分

入前後も一寸

ス ホラダナ 今井宗久の好むと ダイリン 大林和尚が好む
と ナ 名を リヤクマ 寄るふも ス つけたり
棚 コノツ さまの ス 一つ コノツ おもひ ス は ス 糸の ス 四角の ス は ス なる ス なる
と ス 合 ス きて ス なる ス なる ス なる ス なる

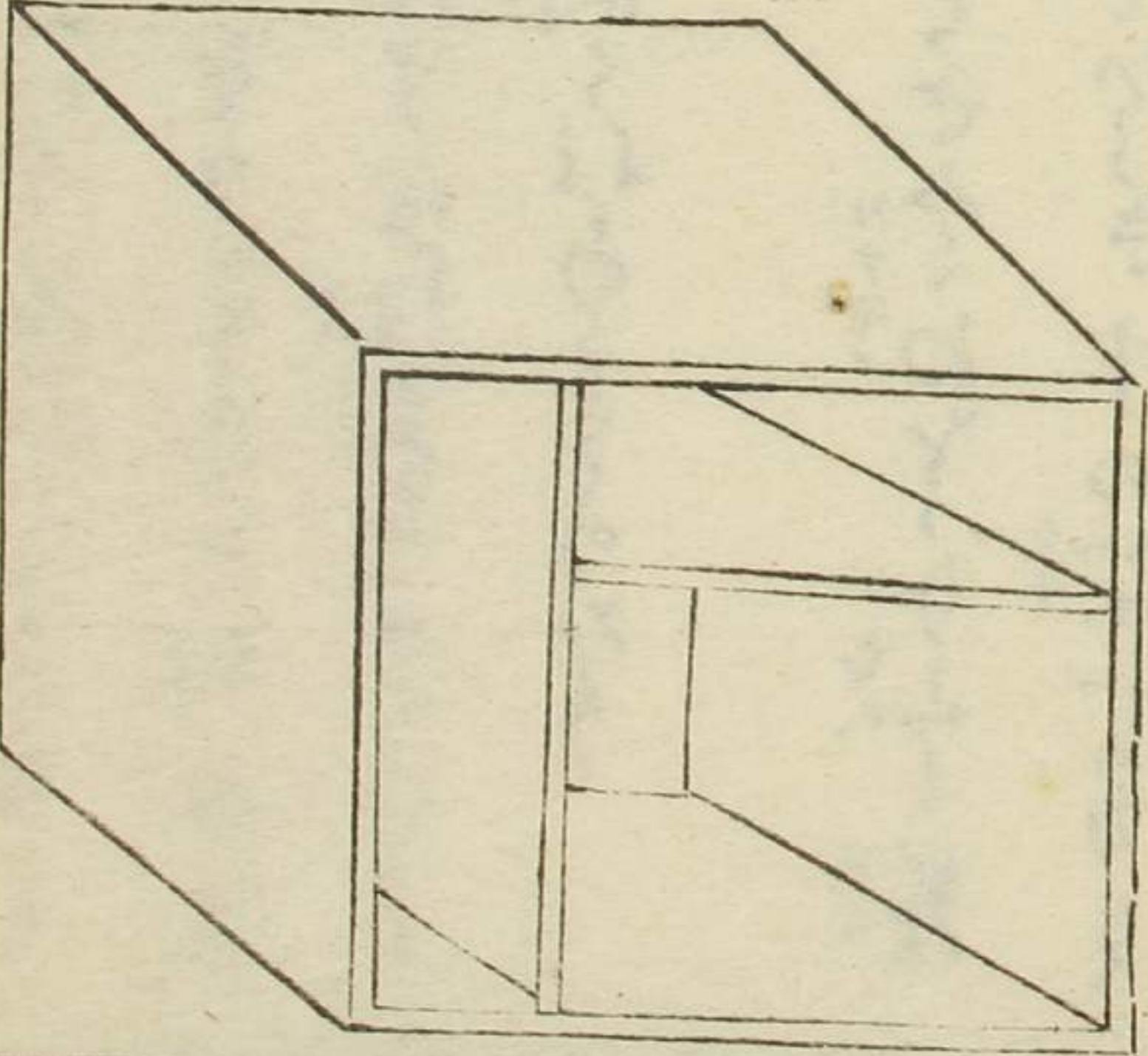
○ 利休草笥

利休 ヨダラ 小田原陣の サ 持参 ナカ して ナカ なる ナカ 中の ナカ 棚
と サキ 先 イダ へ イダ 出 イダ する イダ なる イダ なる イダ なる イダ なる
あり

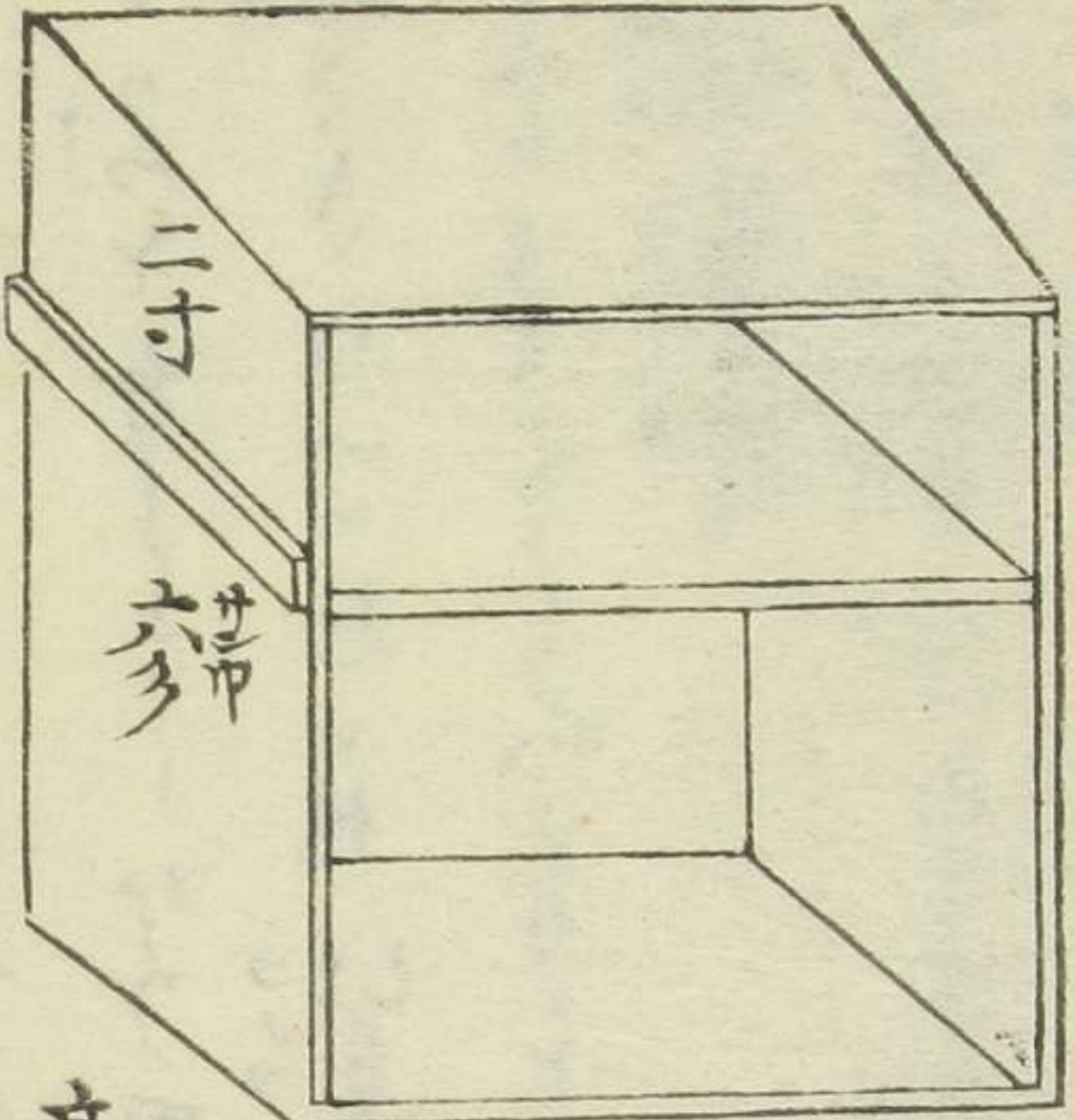


○ 銭屋宗納簞笥

銭ヲロシタル図

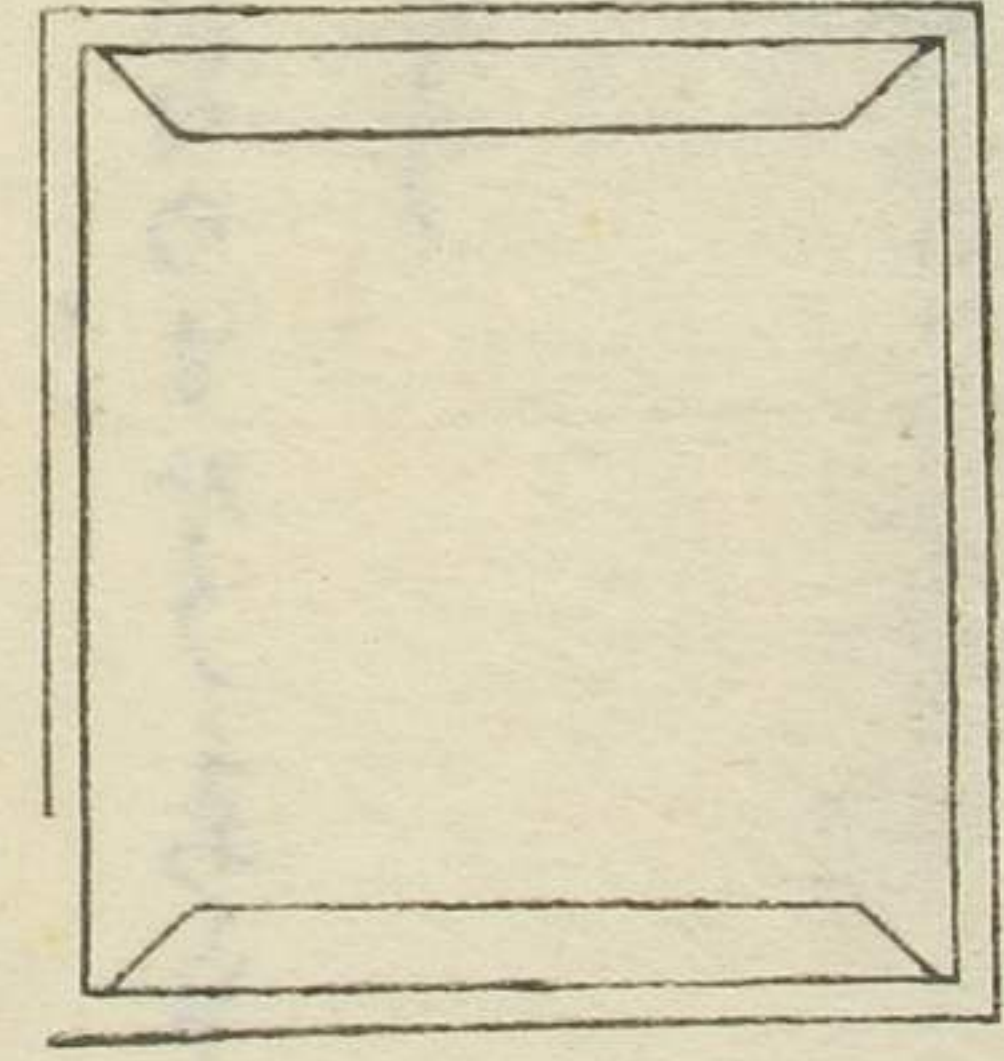


内ノ図



内ノ番

高サ一尺四寸三分
横外リ一尺二寸五分
入内リ八寸九分



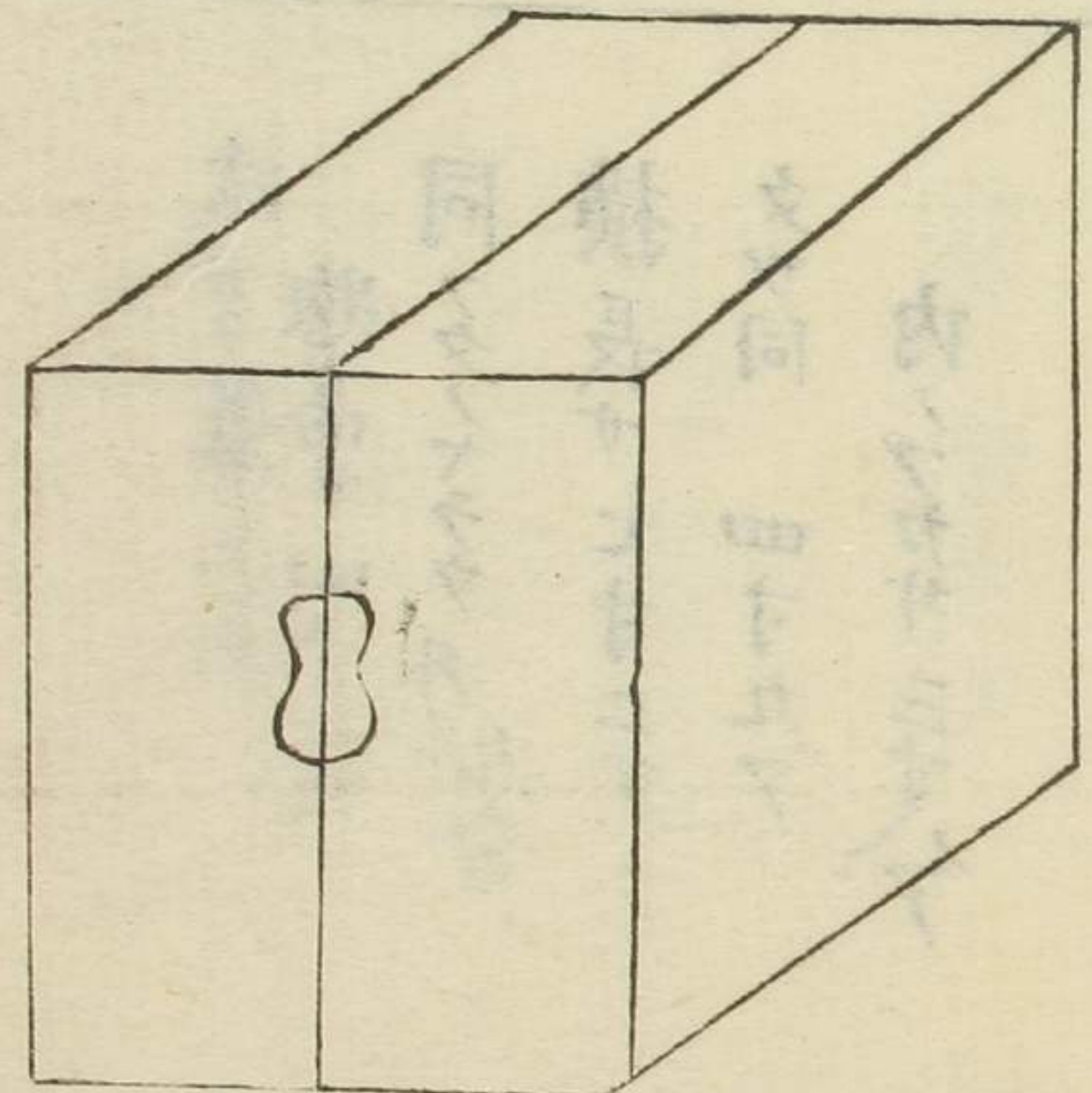
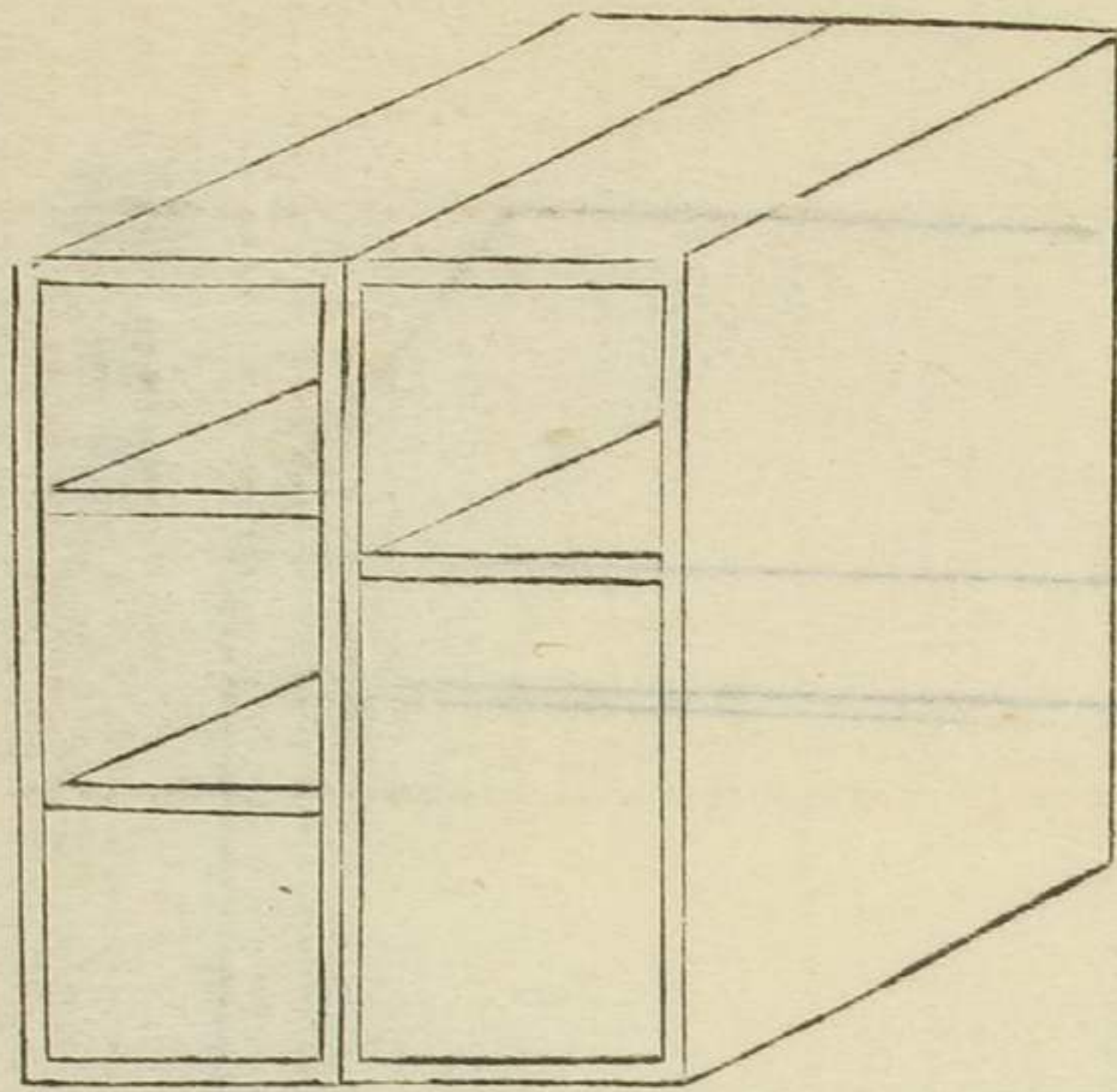
銭箱と真向ニミタル図

宗納の所持^{ソウナウ} 唐製^{トウセイ}の茶^{シヤ}たんす^{タンズ}を用て
 茶^{シヤ}の^{シヤ}箱^{コボ}の^{シヤ}内^{ウチ}に^{シヤ}茶^{シヤ}の^{シヤ}箱^{コボ}を^{シヤ}納^ネめ^{シヤ}て^{シヤ}置^ケく^{シヤ}は^{シヤ}り^{シヤ}利^リ休^{キウ}宗^{ソウ}
 久^クか^キを^キも^モ塗^ヌ物^{モノ}の^ヌ唐^{トウ}製^{セイ}の^{セイ}茶^{シヤ}たんす^{タンズ}は^{シヤ}あ^アら^ラい^イし^シ
 ま^マじ^ジら^ラう^ウ今^{イマ}も^モ唐^{トウ}製^{セイ}の^{セイ}茶^{シヤ}たんす^{タンズ}は^{シヤ}あ^アら^ラい^イし^シ
 久^クか^キを^キも^モ塗^ヌ物^{モノ}の^ヌ唐^{トウ}製^{セイ}の^{セイ}茶^{シヤ}たんす^{タンズ}は^{シヤ}あ^アら^ラい^イし^シ

○ 割^ワ箆^バ筭^ス筭^ス

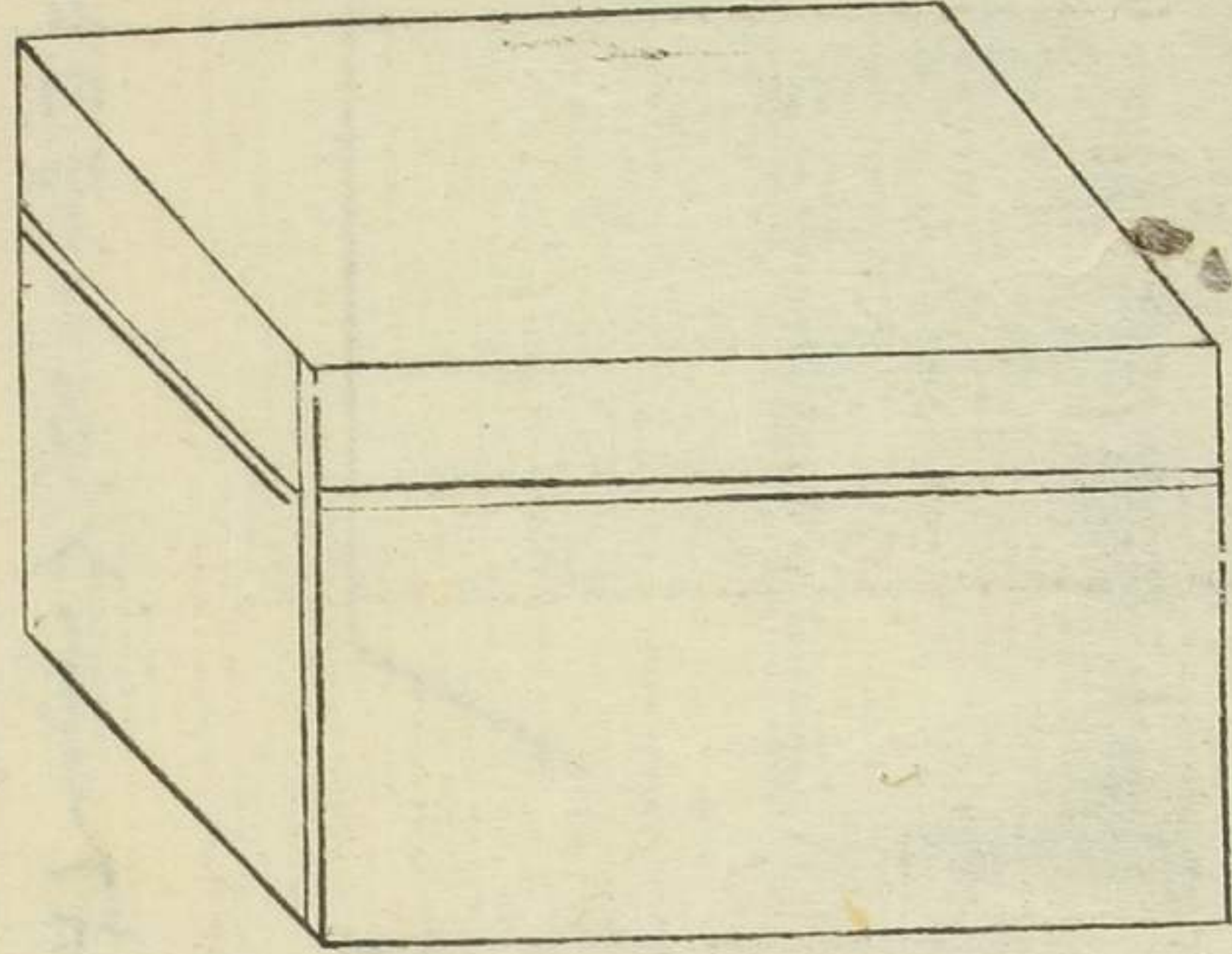
和^ワの^ワ茶^{シヤ}たんす^{タンズ}は^{シヤ}あ^アら^ラい^イし^シ
 久^クか^キを^キも^モ塗^ヌ物^{モノ}の^ヌ唐^{トウ}製^{セイ}の^{セイ}茶^{シヤ}たんす^{タンズ}は^{シヤ}あ^アら^ラい^イし^シ
 ま^マじ^ジら^ラう^ウ今^{イマ}も^モ唐^{トウ}製^{セイ}の^{セイ}茶^{シヤ}たんす^{タンズ}は^{シヤ}あ^アら^ラい^イし^シ
 久^クか^キを^キも^モ塗^ヌ物^{モノ}の^ヌ唐^{トウ}製^{セイ}の^{セイ}茶^{シヤ}たんす^{タンズ}は^{シヤ}あ^アら^ラい^イし^シ

方の架^カ茶^{シヤ}たんす^{タンズ}は^{シヤ}あ^アら^ラい^イし^シ



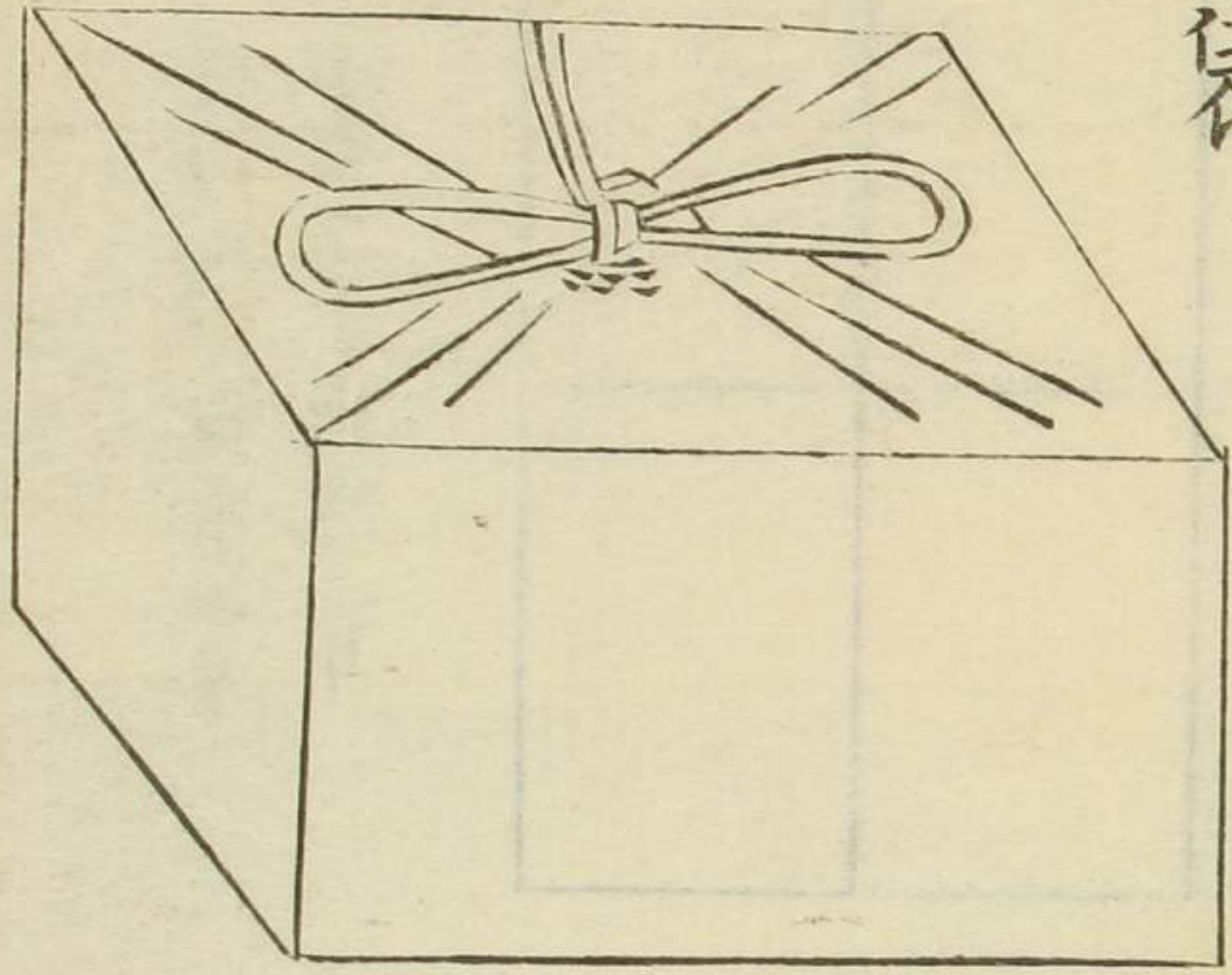
○茶箱 利休好

桐白木



底ヨリ蓋ノ上ニテ
惣高サ四寸ニテ
同フタノヤラウ外九分
横長サ七寸ニア
タツ同 四寸九ア
内ノフカサ三寸分

袋



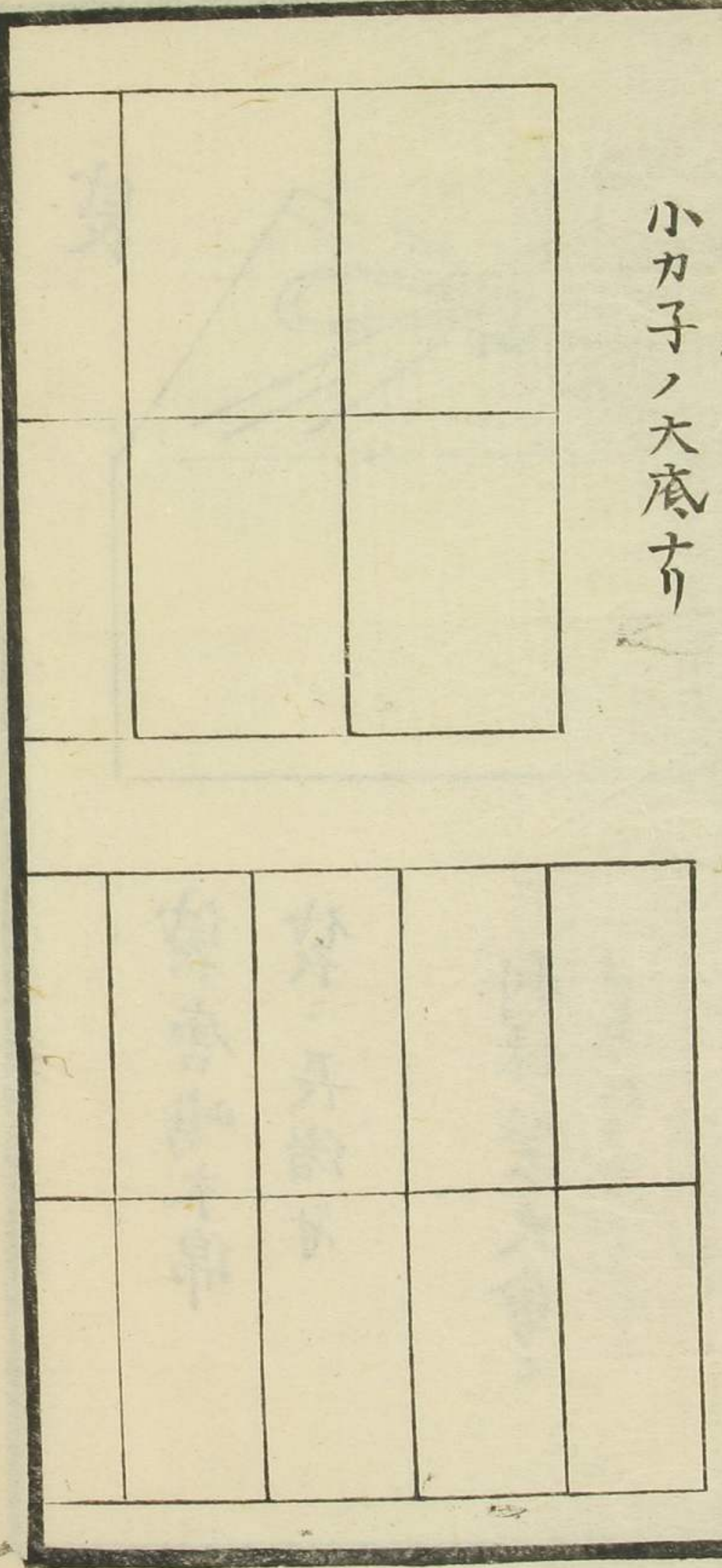
袋唐嶋木綿
袋ニ長緒付

利休紫火舎
りららららら

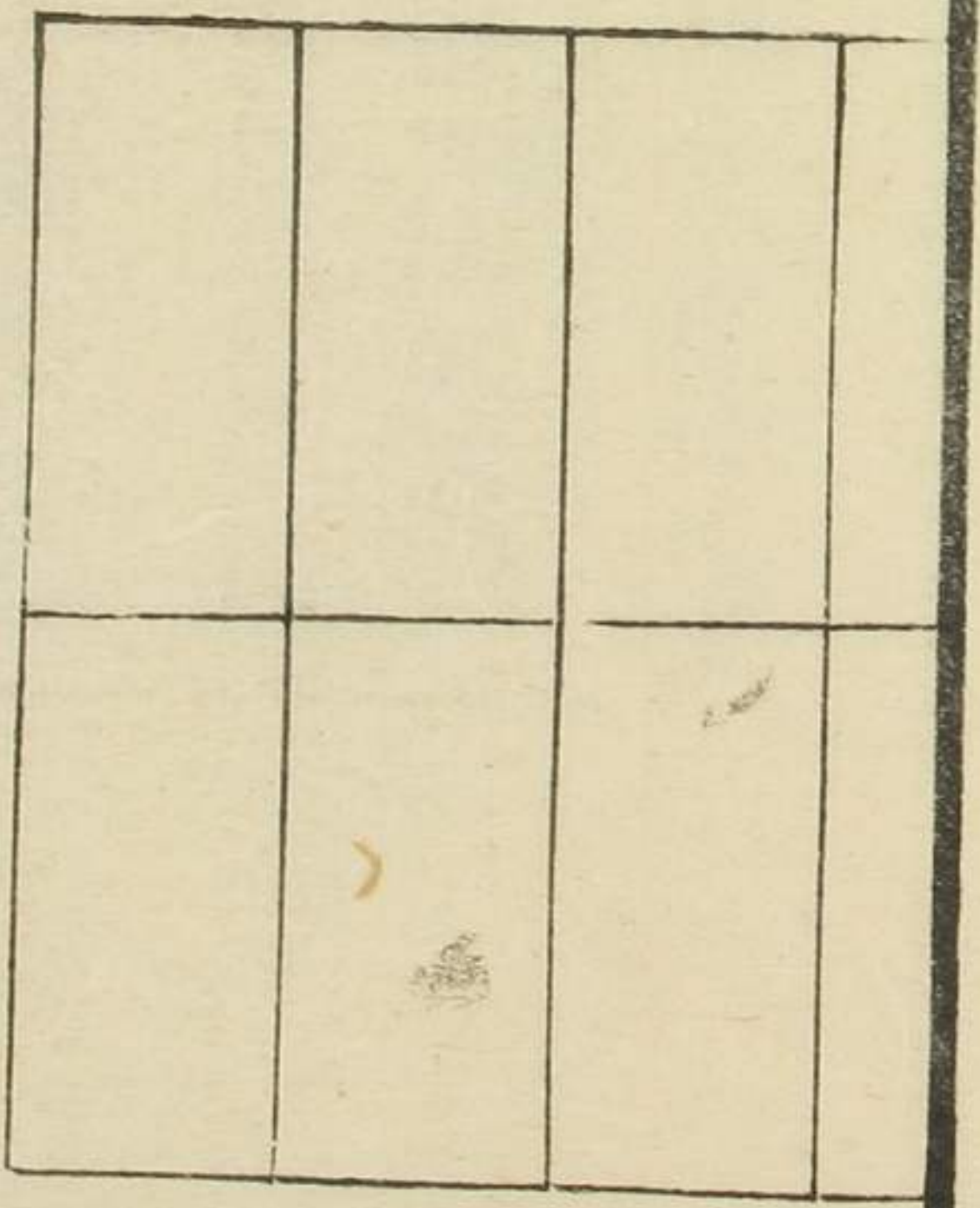
袋の寸尺の相々
おろろろ

○ 臺子大金小金之割方

三ツ折ノカネナリ
小カ子ノ大底ナリ



今テ時ノ入大方ユノカネ
ヲ用ユルユエ相違ノコト
出来ナリ小カネ大カネ差
別ヲ弁ヘサルユエナリ小カ子
坐敷ニテユノ三ツ折ナリ



此カネハ上ノ三ツ折ノカネニ
間ノカネヲ入タルモノナリ
同直ナカラコレハ間々ニ
大カネト合カネナリ此故ニ
却テ差別方心得違ルナリ
小臺子ノカネニテ大臺子ハ
クヒナカヒ多レ

五陽六陰ノ大カネ大皇子ノ
本式カネナリ可秘々々

此カネ秘更ナリ本カネナリ

此三ツノ固ノ内奥一ツノカ子ニテ
 教年四推リノ事皇子ノ少ナキ
 志ヲ用ル事ノ名ヲナク
 能ク四ノ事ノ一ノ事ノ口傳
 下ノ以テ受ク

七月入り

宗易

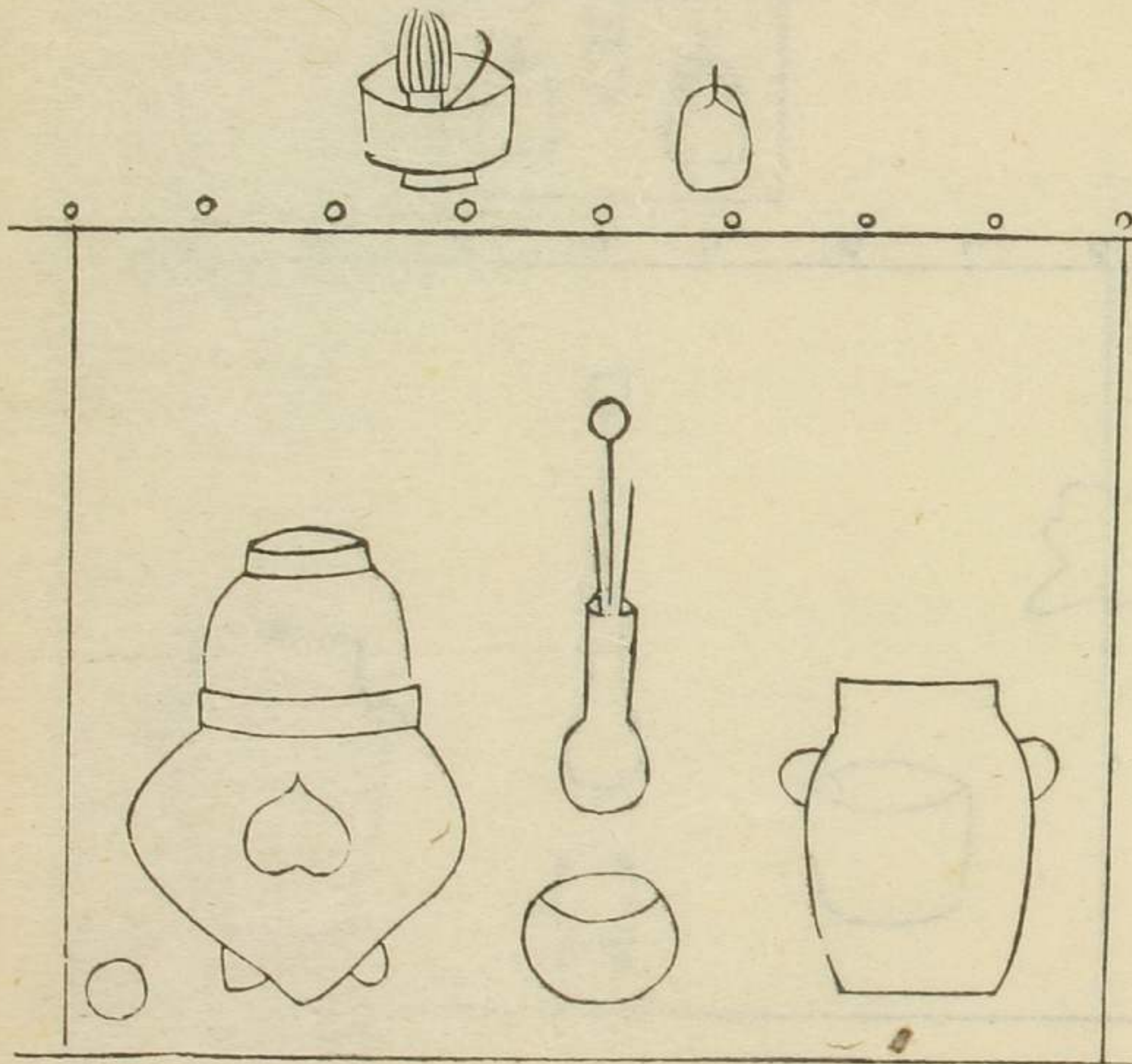
集字卷六

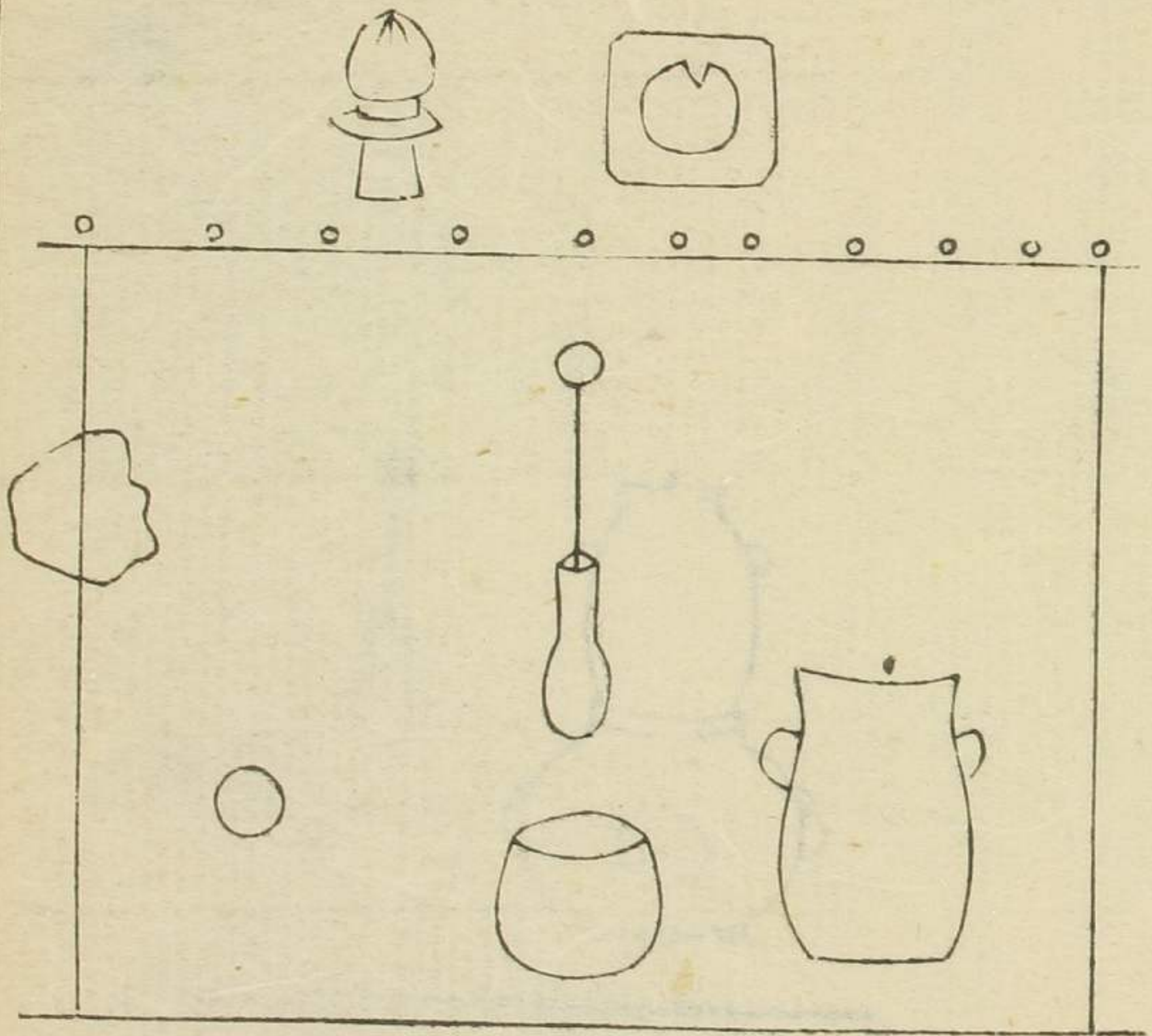
透柳大座書院ワヒ座敷
 毛トハ見ゆ子ノ五ツカ子ナリ
 小座敷モ午冬敷モ物致ノ
 毛トハ見ゆ子ノ七ツ紐ナリ

小基子セツカ子道具飾無別儀

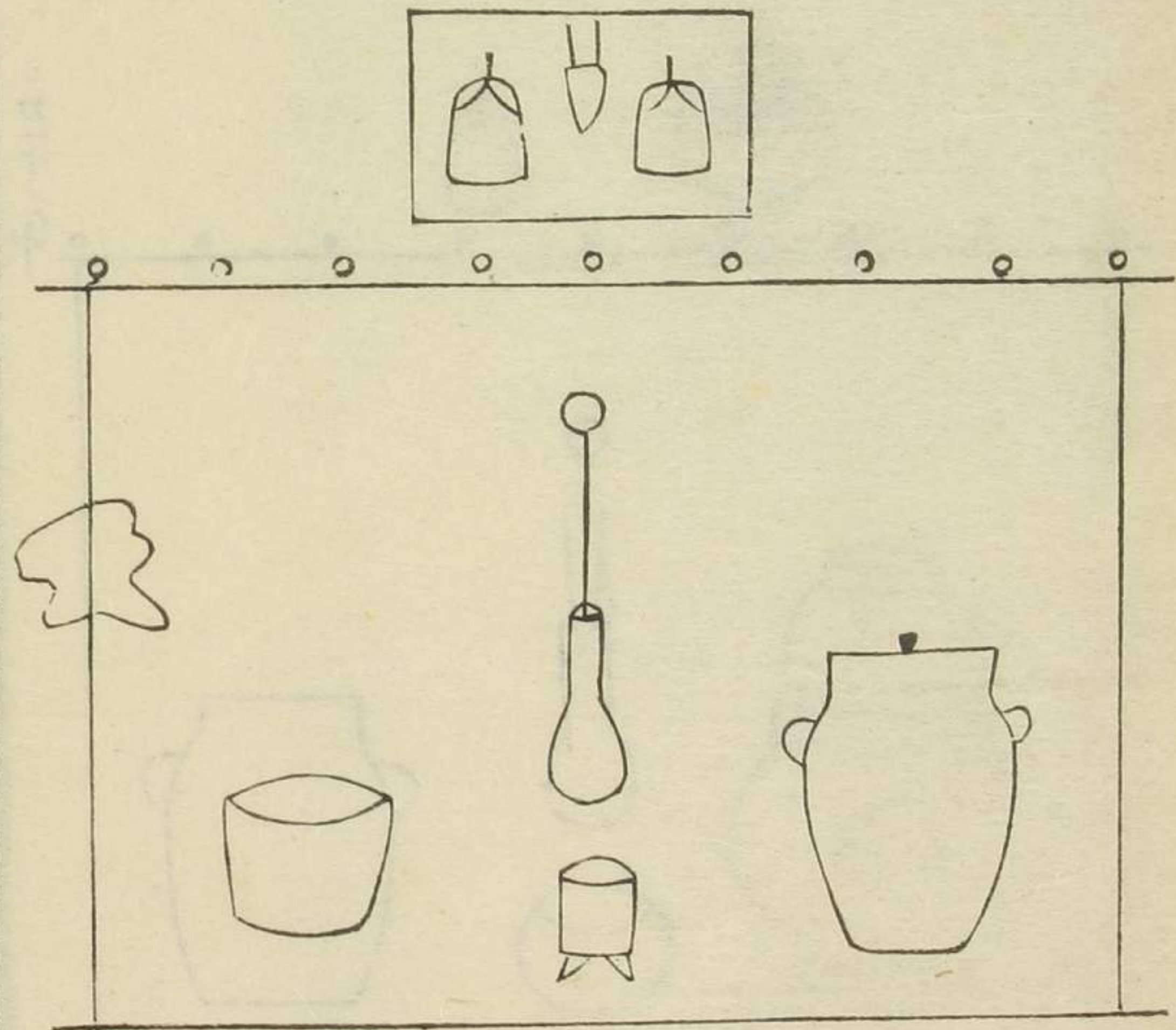
小基子ノ長
 扱イナカ間ニハ
 ヨク合ナリシ
 ユイナカ衆小
 基子好ニル尤
 ノナラ京間ニ
 小基子オク
 トキハ左右置
 目ニツマヌヘ

○カ子ノ印

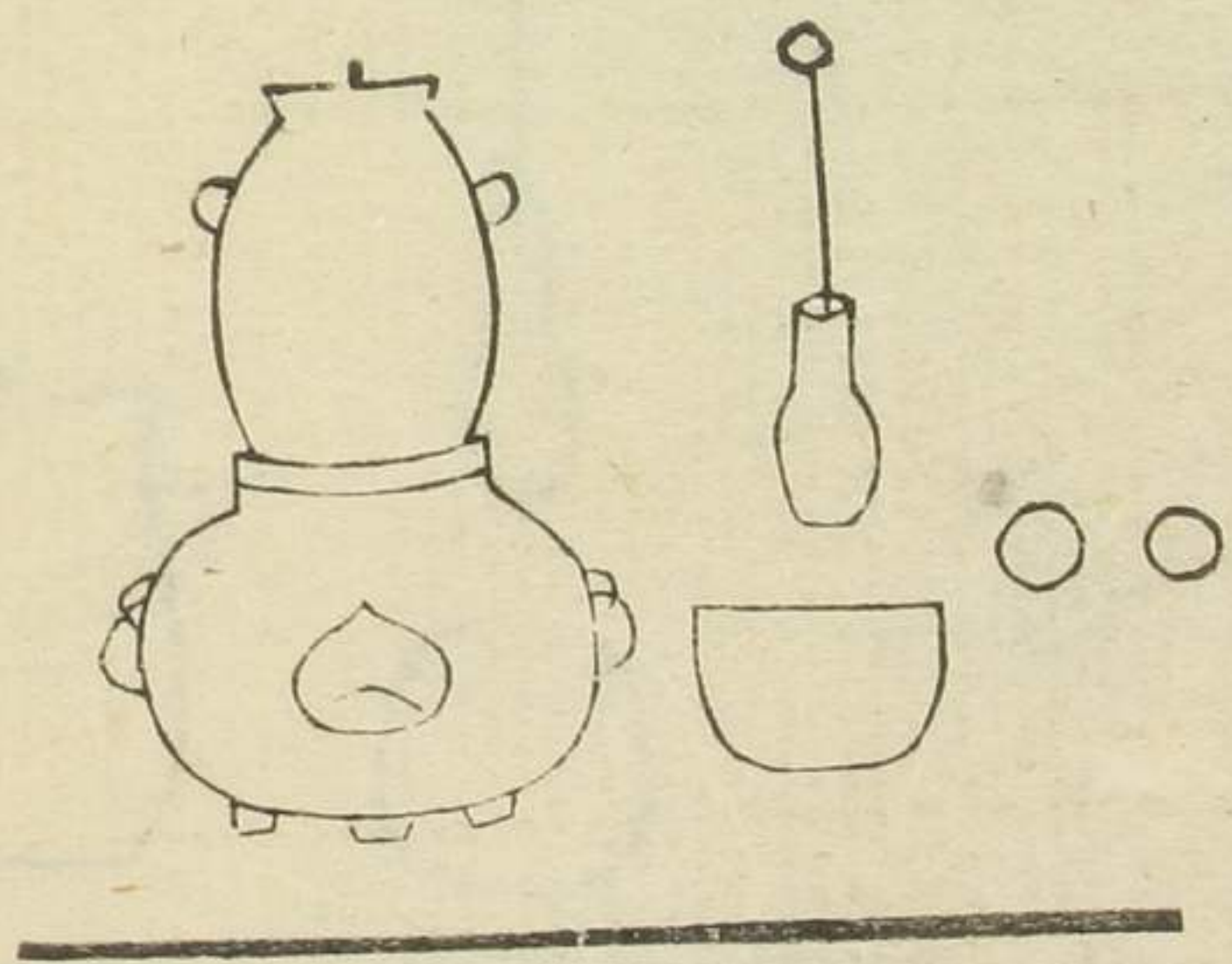




弓其室モ
七ツカ子
ヨシ



中板



一 其至子ハ榮花結構ノ式カレハ方礎更アリトシ

トシヤノユ コクニ 極真コトシ式ノ根幹ナリ飾トシ

サウ ダン 竹乃之段アリ秘ヲモトクハ ツク 俵ノ下トシ所ハ

ヨシ トク 衣十徳アリ トリ 衣アリトシ ニンゼン 人ナリトシ

タイ ス 其子ノ行儀ヲ サネキ 日衣ハ ユメク 衣アリトシ

キ ニシ 人ナリトシ サウソク 装束ナリトシ シラレ 進ハ

ツ ネ 帝ノ下トシ リヤクキ 睡儀ノ下ナリ オシテ 東山

オ ホカク 衣ナリトシ カリキヌ 衣ナリトシ メサラレ 衣ナリトシ

トシ

一 耳の子の所作真かろとを堅くかりあ〜い〜も
ゆ〜やうは天やうか〜い〜

一 身がま〜い〜の脊よりよく〜の心得きとあ〜

一 墨子の風がよゆなづきい〜とあへな〜と〜

一 夢如か〜い〜ゆなづき〜の風がよ〜

と月掙あ〜

一 源氏源平十種字法小き姓〜い〜かや〜り

夢方香余うのとき〜カの子か〜り〜

津之船〜い〜なり

一 墨の子さ〜の鼻は〜は枝おち枝ぶ〜い〜

赤山殿〜も〜い〜い〜い〜も〜地

あ〜い〜ち〜い〜い〜い〜い〜

針書 和歌

絵も 掛画又 後のら〜い〜合〜い〜

屏風の〜と〜大目と身〜い〜い〜

えぬわ〜い〜

一 墨のふ〜い〜か子のぬ〜い〜

墨のふ〜い〜い〜東山殿の〜い〜

子細あつ〜

子細あつ〜かゞ〜せふぐの少いツレくおろす

こあつ〜おろすおろす

一 葦子のエり板を又天井板と段の板り〜

い〜

天井板のあら〜

さぐ〜

天井板板〜

う〜

一 葦子の柱の名

● 相手柱 ● 客柱
又見付柱

● 隅柱 ● 勝手柱

一 葦子の葦子の

さ〜

あ〜

大正八朝月抄四編上

とよみ〜つひの脊高とつみかきをもとめこそ
前同聲屋とつみかき山左邊より後お師
名譽の上手かろし小孫の白紙を法させ中
板のかざり十ふら洞〜〜〜〜後 東山殿
所物きてソセウノ板立合子のあがし〜夜学の所
子とつみかきと車軸の冬を小朝鮮の風炉この
かをかざり〜〜〜世の上中板〜〜〜て判じ
〜〜〜田舎のわなわな〜〜〜あ〜〜〜て飾
白紙所作秘傳〜〜〜〜〜ヨミダシドクタイ

宗島

そのかきり

一中板の書院ッサリノろ平はあ〜〜〜ふりら
西〜〜〜年真ふ夏のま〜〜〜い〜〜〜月いら〜〜〜也

南坊

芥子式湖月集四編上畢

芥子式湖月集四編上

四十二

